

0001

一般知識 政治・行政・国際 > 政治制度・政党・選挙 | 難易度：基礎

同じ細分類について、次の学習メモA・Bの評価の組合せとして最も妥当なものはどれか。

A：論点「国会の地位」について、学習メモ「日本の統治機構では、国会・内閣・裁判所に立法・行政・司法の主要な権限が配分される。」を妥当な整理として扱う。

B：論点「二院制」について、学習メモ「日本は二院制を採用し、衆議院と参議院がそれぞれ異なる任期・選出制度を持つ。」を妥当な整理として扱う。

ア．A「国会の地位」は妥当 / B「二院制」も妥当

イ．A「国会の地位」は妥当 / B「二院制」は不妥当

ウ．A「国会の地位」は不妥当 / B「二院制」は妥当

エ．A「国会の地位」は不妥当 / B「二院制」も不妥当

答え・解説

正答：ア

ア：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

イ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：Aの評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：A・Bの双方の評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：日本の統治機構では、国会・内閣・裁判所に立法・行政・司法の主要な権限が配分される。Bの根拠：日本は二院制を採用し、衆議院と参議院がそれぞれ異なる任期・選出制度を持つ。二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

0002

一般知識 政治・行政・国際 > 政治制度・政党・選挙 | 難易度：基礎

受験生が復習ノートに次のA・Bを書いた。各記述の妥当性の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：論点「二院制」について、学習メモ「日本は二院制を採用し、衆議院と参議院がそれぞれ異なる任期・選出制度を持つ。」を妥当な整理として扱う。

B：論点「選挙原則」について、学習メモ「選挙制度では普通・平等・秘密投票などの原則を基礎に、公職選挙法が具体的手続を定める。」を誤った整理として退ける。

ア．A「二院制」は妥当 / B「選挙原則」も妥当

イ．A「二院制」は妥当 / B「選挙原則」は不妥当

ウ．A「二院制」は不妥当 / B「選挙原則」は妥当

エ．A「二院制」は不妥当 / B「選挙原則」も不妥当

答え・解説

正答：イ

ア：Bの評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

ウ：A・Bの双方の評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：Aの評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：日本は二院制を採用し、衆議院と参議院がそれぞれ異なる任期・選出制度を持つ。Bの根拠：選挙制度では普通・平等・秘密投票などの原則を基礎に、公職選挙法が具体的手続を定める。二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

0003

一般知識 政治・行政・国際 > 政治制度・政党・選挙 | 難易度：基礎

次の二つの整理A・Bについて、妥当・不妥当の組合せとして正しいものはどれか。

A：論点「選挙原則」について、学習メモ「選挙制度では普通・平等・秘密投票などの原則を基礎に、公職選挙法が具体的手続を定める。」を誤った整理として退ける。

B：論点「衆議院の任期」について、学習メモ「衆議院は解散があるため、4年の任期が必ず満了するとは限らない。」を妥当な整理として扱う。

ア . A「選挙原則」は妥当 / B「衆議院の任期」も妥当

イ . A「選挙原則」は妥当 / B「衆議院の任期」は不妥当

ウ . A「選挙原則」は不妥当 / B「衆議院の任期」は妥当

エ . A「選挙原則」は不妥当 / B「衆議院の任期」も不妥当

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

答え・解説

正答：ウ

ア：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

エ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：選挙制度では普通・平等・秘密投票などの原則を基礎に、公職選挙法が具体的手続を定める。Bの根拠：衆議院は解散があるため、4年の任期が必ず満了するとは限らない。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

0004

一般知識 政治・行政・国際 > 政治制度・政党・選挙 | 難易度：標準

同一分野の二つの判断A・Bを検討した。評価の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：論点「衆議院の任期」について、学習メモ「衆議院は解散があるため、4年の任期が必ず満了するとは限らない。」を誤った整理として退ける。

B：論点「参議院の任期」について、学習メモ「参議院は解散がなく、半数改選によって議院の継続性が確保されている。」を誤った整理として退ける。

ア . A「衆議院の任期」は妥当 / B「参議院の任期」も妥当

イ . A「衆議院の任期」は妥当 / B「参議院の任期」は不妥当

ウ . A「衆議院の任期」は不妥当 / B「参議院の任期」は妥当

エ . A「衆議院の任期」は不妥当 / B「参議院の任期」も不妥当

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

答え・解説

正答：エ

ア：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

総合解説：Aの根拠：衆議院は解散があるため、4年の任期が必ず満了するとは限らない。 Bの根拠：参議院は解散がなく、半数改選によって議院の継続性が確保されている。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

0005

一般知識 政治・行政・国際 > 政治制度・政党・選挙 | 難易度：標準

同じ細分類について、次の学習メモA・Bの評価の組合せとして最も妥当なものはどれか。
A：論点「参議院の任期」について、学習メモ「参議院は解散がなく、半数改選によって議院の継続性が確保されている。」を妥当な整理として扱う。
B：論点「選挙制度比較」について、学習メモ「選挙制度は代表性と政権形成の安定性に異なる影響を与えるため、制度比較が重要である。」を妥当な整理として扱う。

ア．A「参議院の任期」は妥当 / B「選挙制度比較」も妥当
イ．A「参議院の任期」は妥当 / B「選挙制度比較」は不妥当
ウ．A「参議院の任期」は不妥当 / B「選挙制度比較」は妥当
エ．A「参議院の任期」は不妥当 / B「選挙制度比較」も不妥当

答え・解説

正答：ア

ア：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。
イ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。
ウ：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。
エ：A・Bの双方の評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。
総合解説：Aの根拠：参議院は解散がなく、半数改選によって議院の継続性が確保されている。Bの根拠：選挙制度は代表性と政権形成の安定性に異なる影響を与えるため、制度比較が重要である。二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

0006

一般知識 政治・行政・国際 > 政治制度・政党・選挙 | 難易度：標準

受験生が復習ノートに次のA・Bを書いた。各記述の妥当性の組合せとして最も適切なものはどれか。
A：論点「選挙制度比較」について、学習メモ「選挙制度は代表性と政権形成の安定性に異なる影響を与えるため、制度比較が重要である。」を妥当な整理として扱う。
B：論点「政党の機能」について、学習メモ「政党は政策形成、利益集約、候補者選抜、議会活動、政権形成などを通じ民主政治を媒介する。」を誤った整理として退ける。

ア．A「選挙制度比較」は妥当 / B「政党の機能」も妥当
イ．A「選挙制度比較」は妥当 / B「政党の機能」は不妥当
ウ．A「選挙制度比較」は不妥当 / B「政党の機能」は妥当
エ．A「選挙制度比較」は不妥当 / B「政党の機能」も不妥当

答え・解説

正答：イ

ア：Bの評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。
イ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。
ウ：A・Bの双方の評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。
エ：Aの評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。
総合解説：Aの根拠：選挙制度は代表性と政権形成の安定性に異なる影響を与えるため、制度比較が重要である。Bの根拠：政党は政策形成、利益集約、候補者選抜、議会活動、政権形成などを通じ民主政治を媒介する。二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0007

一般知識 政治・行政・国際 > 政治制度・政党・選挙 | 難易度：標準

次の二つの整理A・Bについて、妥当・不妥当の組合せとして正しいものはどれか。

A：論点「政党の機能」について、学習メモ「政党は政策形成、利益集約、候補者選抜、議会活動、政権形成などを通じ民主政治を媒介する。」を誤った整理として退ける。

B：論点「政党助成」について、学習メモ「政党交付金は公的資金を政党に配分する制度であり、要件・使途報告等の規律が設けられる。」を妥当な整理として扱う。

ア . A「政党の機能」は妥当 / B「政党助成」も妥当

イ . A「政党の機能」は妥当 / B「政党助成」は不妥当

ウ . A「政党の機能」は不妥当 / B「政党助成」は妥当

エ . A「政党の機能」は不妥当 / B「政党助成」も不妥当

答え・解説

正答：ウ

ア：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

エ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：政党は政策形成、利益集約、候補者選抜、議会活動、政権形成などを通じ民主政治を媒介する。 Bの根拠：政党交付金は公的資金を政党に配分する制度であり、要件・使途報告等の規律が設けられる。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0008

一般知識 政治・行政・国際 > 政治制度・政党・選挙 | 難易度：標準

同一分野の二つの判断A・Bを検討した。評価の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：論点「政党助成」について、学習メモ「政党交付金は公的資金を政党に配分する制度であり、要件・使途報告等の規律が設けられる。」を誤った整理として退ける。

B：論点「投票価値の平等」について、学習メモ「選挙制度では一人一票の形式的平等だけでなく、各票の価値の平等も重要な憲法上の問題となる。」を誤った整理として退ける。

ア . A「政党助成」は妥当 / B「投票価値の平等」も妥当

イ . A「政党助成」は妥当 / B「投票価値の平等」は不妥当

ウ . A「政党助成」は不妥当 / B「投票価値の平等」は妥当

エ . A「政党助成」は不妥当 / B「投票価値の平等」も不妥当

答え・解説

正答：エ

ア：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

総合解説：Aの根拠：政党交付金は公的資金を政党に配分する制度であり、要件・使途報告等の規律が設けられる。 Bの根拠：選挙制度では一人一票の形式的平等だけでなく、各票の価値の平等も重要な憲法上の問題となる。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

0009

一般知識政治・行政・国際 > 政治制度・政党・選挙 | 難易度：応用

同じ細分類について、次の学習メモA・Bの評価の組合せとして最も妥当なものはどれか。

A：論点「投票価値の平等」について、学習メモ「選挙制度では一人一票の形式的平等だけでなく、各票の価値の平等も重要な憲法上の問題となる。」を妥当な整理として扱う。

B：論点「議院内閣制」について、学習メモ「議院内閣制では立法院と行政府が一定の協働関係を持ち、内閣の民主的基盤を国会に求める。」を妥当な整理として扱う。

ア . A「投票価値の平等」は妥当 / B「議院内閣制」も妥当

イ . A「投票価値の平等」は妥当 / B「議院内閣制」は不妥当

ウ . A「投票価値の平等」は不妥当 / B「議院内閣制」は妥当

エ . A「投票価値の平等」は不妥当 / B「議院内閣制」も不妥当

答え・解説

正答：ア

ア：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

イ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：Aの評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：A・Bの双方の評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：選挙制度では一人一票の形式的平等だけでなく、各票の価値の平等も重要な憲法上の問題となる。 Bの根拠：議院内閣制では立法院と行政府が一定の協働関係を持ち、内閣の民主的基盤を国会に求める。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0010

一般知識政治・行政・国際 > 政治制度・政党・選挙 | 難易度：応用

受験生が復習 ノートに次のA・Bを書いた。各記述の妥当性の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：論点「議院内閣制」について、学習メモ「議院内閣制では立法院と行政府が一定の協働関係を持ち、内閣の民主的基盤を国会に求める。」を妥当な整理として扱う。

B：論点「国会の地位」について、学習メモ「日本の統治機構では、国会・内閣・裁判所に立法・行政・司法の主要な権限が配分される。」を誤った整理として退ける。

ア . A「議院内閣制」は妥当 / B「国会の地位」も妥当

イ . A「議院内閣制」は妥当 / B「国会の地位」は不妥当

ウ . A「議院内閣制」は不妥当 / B「国会の地位」は妥当

エ . A「議院内閣制」は不妥当 / B「国会の地位」も不妥当

答え・解説

正答：イ

ア：Bの評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

ウ：A・Bの双方の評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：Aの評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：議院内閣制では立法院と行政府が一定の協働関係を持ち、内閣の民主的基盤を国会に求める。 Bの根拠：日本の統治機構では、国会・内閣・裁判所に立法・行政・司法の主要な権限が配分される。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

0011

一般知識 政治・行政・国際 > 行政・地方制度 | 難易度：基礎

次の二つの整理A・Bについて、妥当・不妥当の組合せとして正しいものはどれか。

A：論点「行政権」について、学習メモ「国の行政権は内閣に属し、内閣総理大臣と国務大臣で組織される内閣が行政を担う。」を誤った整理として退ける。

B：論点「内閣総理大臣」について、学習メモ「内閣総理大臣は内閣の首長として、国政上の総合調整と行政各部の指揮監督を担う。」を妥当な整理として扱う。

ア . A「行政権」は妥当 / B「内閣総理大臣」も妥当

イ . A「行政権」は妥当 / B「内閣総理大臣」は不妥当

ウ . A「行政権」は不妥当 / B「内閣総理大臣」は妥当

エ . A「行政権」は不妥当 / B「内閣総理大臣」も不妥当

答え・解説

正答：ウ

ア：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

エ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：国の行政権は内閣に属し、内閣総理大臣と国務大臣で組織される内閣が行政を担う。 Bの根拠：内閣総理大臣は内閣の首長として、国政上の総合調整と行政各部の指揮監督を担う。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

0012

一般知識 政治・行政・国際 > 行政・地方制度 | 難易度：基礎

同一分野の二つの判断A・Bを検討した。評価の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：論点「内閣総理大臣」について、学習メモ「内閣総理大臣は内閣の首長として、国政上の総合調整と行政各部の指揮監督を担う。」を誤った整理として退ける。

B：論点「行政組織」について、学習メモ「国の行政組織は内閣の統轄の下に省・委員会・庁などで構成され、各機関に所掌事務が配分される。」を誤った整理として退ける。

ア . A「内閣総理大臣」は妥当 / B「行政組織」も妥当

イ . A「内閣総理大臣」は妥当 / B「行政組織」は不妥当

ウ . A「内閣総理大臣」は不妥当 / B「行政組織」は妥当

エ . A「内閣総理大臣」は不妥当 / B「行政組織」も不妥当

答え・解説

正答：エ

ア：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

総合解説：Aの根拠：内閣総理大臣は内閣の首長として、国政上の総合調整と行政各部の指揮監督を担う。 Bの根拠：国の行政組織は内閣の統轄の下に省・委員会・庁などで構成され、各機関に所掌事務が配分される。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

0013

一般知識 政治・行政・国際 > 行政・地方制度 | 難易度：基礎

同じ細分類について、次の学習メモA・Bの評価の組合せとして最も妥当なものはどれか。
A：論点「行政組織」について、学習メモ「国の行政組織は内閣の統轄の下に省・委員会・庁などで構成され、各機関に所掌事務が配分される。」を妥当な整理として扱う。
B：論点「地方自治」について、学習メモ「地方自治の本旨は一般に団体自治と住民自治の二側面から理解される。」を妥当な整理として扱う。
ア．A「行政組織」は妥当 / B「地方自治」も妥当
イ．A「行政組織」は妥当 / B「地方自治」は不妥当
ウ．A「行政組織」は不妥当 / B「地方自治」は妥当
エ．A「行政組織」は不妥当 / B「地方自治」も不妥当

答え・解説

正答：ア

ア：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。
イ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。
ウ：Aの評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。
エ：A・Bの双方の評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。
総合解説：Aの根拠：国の行政組織は内閣の統轄の下に省・委員会・庁などで構成され、各機関に所掌事務が配分される。 Bの根拠：地方自治の本旨は一般に団体自治と住民自治の二側面から理解される。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

0014

一般知識 政治・行政・国際 > 行政・地方制度 | 難易度：標準

受験生が復習ノートに次のA・Bを書いた。各記述の妥当性の組合せとして最も適切なものはどれか。
A：論点「地方自治」について、学習メモ「地方自治の本旨は一般に団体自治と住民自治の二側面から理解される。」を妥当な整理として扱う。
B：論点「二元代表制」について、学習メモ「国の議院内閣制と異なり、地方では住民が長と議会を別々に選ぶ二元代表制が採られている。」を誤った整理として退ける。
ア．A「地方自治」は妥当 / B「二元代表制」も妥当
イ．A「地方自治」は妥当 / B「二元代表制」は不妥当
ウ．A「地方自治」は不妥当 / B「二元代表制」は妥当
エ．A「地方自治」は不妥当 / B「二元代表制」も不妥当

答え・解説

正答：イ

ア：Bの評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。
イ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。
ウ：A・Bの双方の評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。
エ：Aの評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。
総合解説：Aの根拠：地方自治の本旨は一般に団体自治と住民自治の二側面から理解される。 Bの根拠：国の議院内閣制と異なり、地方では住民が長と議会を別々に選ぶ二元代表制が採られている。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

0015

一般知識 政治・行政・国際 > 行政・地方制度 | 難易度：標準

次の二つの整理A・Bについて、妥当・不妥当の組合せとして正しいものはどれか。

A：論点「二元代表制」について、学習メモ「国の議院内閣制と異なり、地方では住民が長と議会を別々に選ぶ二元代表制が採られている。」を誤った整理として退ける。

B：論点「事務区分」について、学習メモ「機関委任事務制度廃止後、地方公共団体の事務は自治事務と法定受託事務を基本に整理される。」を妥当な整理として扱う。

ア．A「二元代表制」は妥当 / B「事務区分」も妥当

イ．A「二元代表制」は妥当 / B「事務区分」は不妥当

ウ．A「二元代表制」は不妥当 / B「事務区分」は妥当

エ．A「二元代表制」は不妥当 / B「事務区分」も不妥当

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

答え・解説

正答：ウ

ア：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

エ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：国の議院内閣制と異なり、地方では住民が長と議会を別々に選ぶ二元代表制が採られている。Bの根拠：機関委任事務制度廃止後、地方公共団体の事務は自治事務と法定受託事務を基本に整理される。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

0016

一般知識 政治・行政・国際 > 行政・地方制度 | 難易度：標準

同一分野の二つの判断A・Bを検討した。評価の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：論点「事務区分」について、学習メモ「機関委任事務制度廃止後、地方公共団体の事務は自治事務と法定受託事務を基本に整理される。」を誤った整理として退ける。

B：論点「条例・規則」について、学習メモ「地方自治では議会の条例制定権と長の規則制定権を区別することが基本である。」を誤った整理として退ける。

ア．A「事務区分」は妥当 / B「条例・規則」も妥当

イ．A「事務区分」は妥当 / B「条例・規則」は不妥当

ウ．A「事務区分」は不妥当 / B「条例・規則」は妥当

エ．A「事務区分」は不妥当 / B「条例・規則」も不妥当

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

答え・解説

正答：エ

ア：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

総合解説：Aの根拠：機関委任事務制度廃止後、地方公共団体の事務は自治事務と法定受託事務を基本に整理される。Bの根拠：地方自治では議会の条例制定権と長の規則制定権を区別することが基本である。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

0017

一般知識 政治・行政・国際 > 行政・地方制度 | 難易度：標準

同じ細分類について、次の学習メモA・Bの評価の組合せとして最も妥当なものはどれか。
A：論点「条例・規則」について、学習メモ「地方自治では議会の条例制定権と長の規則制定権を区別することが基本である。」を妥当な整理として扱う。
B：論点「行政委員会」について、学習メモ「行政委員会は長から一定の独立性を持つ合議制機関として、選挙・教育等の分野を担う。」を妥当な整理として扱う。

- ア . A「条例・規則」は妥当 / B「行政委員会」も妥当
イ . A「条例・規則」は妥当 / B「行政委員会」は不妥当
ウ . A「条例・規則」は不妥当 / B「行政委員会」は妥当
エ . A「条例・規則」は不妥当 / B「行政委員会」も不妥当

答え・解説

正答：ア

ア：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。
イ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。
ウ：Aの評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。
エ：A・Bの双方の評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。
総合解説：Aの根拠：地方自治では議会の条例制定権と長の規則制定権を区別することが基本である。 Bの根拠：行政委員会は長から一定の独立性を持つ合議制機関として、選挙・教育等の分野を担う。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

0018

一般知識 政治・行政・国際 > 行政・地方制度 | 難易度：標準

受験生が復習ノートに次のA・Bを書いた。各記述の妥当性の組合せとして最も適切なものはどれか。
A：論点「行政委員会」について、学習メモ「行政委員会は長から一定の独立性を持つ合議制機関として、選挙・教育等の分野を担う。」を妥当な整理として扱う。
B：論点「直接請求」について、学習メモ「代表民主制を補完する仕組みとして、地方自治法は住民の直接請求制度を設けている。」を誤った整理として退ける。

- ア . A「行政委員会」は妥当 / B「直接請求」も妥当
イ . A「行政委員会」は妥当 / B「直接請求」は不妥当
ウ . A「行政委員会」は不妥当 / B「直接請求」は妥当
エ . A「行政委員会」は不妥当 / B「直接請求」も不妥当

答え・解説

正答：イ

ア：Bの評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。
イ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。
ウ：A・Bの双方の評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。
エ：Aの評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。
総合解説：Aの根拠：行政委員会は長から一定の独立性を持つ合議制機関として、選挙・教育等の分野を担う。 Bの根拠：代表民主制を補完する仕組みとして、地方自治法は住民の直接請求制度を設けている。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0019

一般知識 政治・行政・国際 > 行政・地方制度 | 難易度：応用

次の二つの整理A・Bについて、妥当・不妥当の組合せとして正しいものはどれか。

A：論点「直接請求」について、学習メモ「代表民主制を補完する仕組みとして、地方自治法は住民の直接請求制度を設けている。」を誤った整理として退ける。

B：論点「地方分権」について、学習メモ「地方分権は地域の自己決定を重視し、国と地方の役割分担や権限・財源の見直しを進める考え方である。」を妥当な整理として扱う。

ア . A「直接請求」は妥当 / B「地方分権」も妥当

イ . A「直接請求」は妥当 / B「地方分権」は不妥当

ウ . A「直接請求」は不妥当 / B「地方分権」は妥当

エ . A「直接請求」は不妥当 / B「地方分権」も不妥当

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

答え・解説

正答：ウ

ア：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

エ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：代表民主制を補完する仕組みとして、地方自治法は住民の直接請求制度を設けている。Bの根拠：地方分権は地域の自己決定を重視し、国と地方の役割分担や権限・財源の見直しを進める考え方である。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

0020

一般知識 政治・行政・国際 > 行政・地方制度 | 難易度：応用

同一分野の二つの判断A・Bを検討した。評価の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：論点「地方分権」について、学習メモ「地方分権は地域の自己決定を重視し、国と地方の役割分担や権限・財源の見直しを進める考え方である。」を誤った整理として退ける。

B：論点「行政権」について、学習メモ「国の行政権は内閣に属し、内閣総理大臣と国務大臣で組織される内閣が行政を担う。」を誤った整理として退ける。

ア . A「地方分権」は妥当 / B「行政権」も妥当

イ . A「地方分権」は妥当 / B「行政権」は不妥当

ウ . A「地方分権」は不妥当 / B「行政権」は妥当

エ . A「地方分権」は不妥当 / B「行政権」も不妥当

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

答え・解説

正答：エ

ア：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

総合解説：Aの根拠：地方分権は地域の自己決定を重視し、国と地方の役割分担や権限・財源の見直しを進める考え方である。Bの根拠：国の行政権は内閣に属し、内閣総理大臣と国務大臣で組織される内閣が行政を担う。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0021

一般知識政治・行政・国際 > 国際関係・国際機関 | 難易度：基礎

同じ細分類について、次の学習メモA・Bの評価の組合せとして最も妥当なものはどれか。

A：論点「国連の目的」について、学習メモ「国連は第二次世界大戦後、平和・安全、人権、開発、国際協力を柱に活動する国際機関である。」を妥当な整理として扱う。

B：論点「安全保障理事会」について、学習メモ「安保理は国際平和・安全維持の中心機関で、常任理事国と非常任理事国から構成される。」を妥当な整理として扱う。

ア . A「国連の目的」は妥当 / B「安全保障理事会」も妥当

イ . A「国連の目的」は妥当 / B「安全保障理事会」は不妥当

ウ . A「国連の目的」は不妥当 / B「安全保障理事会」は妥当

エ . A「国連の目的」は不妥当 / B「安全保障理事会」も不妥当

答え・解説

正答：ア

ア：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

イ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：Aの評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：A・Bの双方の評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：国連は第二次世界大戦後、平和・安全、人権、開発、国際協力を柱に活動する国際機関である。Bの根拠：安保理は国際平和・安全維持の中心機関で、常任理事国と非常任理事国から構成される。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0022

一般知識政治・行政・国際 > 国際関係・国際機関 | 難易度：基礎

受験生が復習ノートに次のA・Bを書いた。各記述の妥当性の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：論点「安全保障理事会」について、学習メモ「安保理は国際平和・安全維持の中心機関で、常任理事国と非常任理事国から構成される。」を妥当な整理として扱う。

B：論点「IMF」について、学習メモ「IMFは為替・国際収支・マクロ経済の安定を支援する国際金融機関である。」を誤った整理として退ける。

ア . A「安全保障理事会」は妥当 / B「IMF」も妥当

イ . A「安全保障理事会」は妥当 / B「IMF」は不妥当

ウ . A「安全保障理事会」は不妥当 / B「IMF」は妥当

エ . A「安全保障理事会」は不妥当 / B「IMF」も不妥当

答え・解説

正答：イ

ア：Bの評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

ウ：A・Bの双方の評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：Aの評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：安保理は国際平和・安全維持の中心機関で、常任理事国と非常任理事国から構成される。Bの根拠：IMFは為替・国際収支・マクロ経済の安定を支援する国際金融機関である。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0023

一般知識 政治・行政・国際 > 国際関係・国際機関 | 難易度：基礎

次の二つの整理A・Bについて、妥当・不妥当の組合せとして正しいものはどれか。

A：論点「IMF」について、学習メモ「IMFは為替・国際収支・マクロ経済の安定を支援する国際金融機関である。」を誤った整理として退ける。

B：論点「WTO」について、学習メモ「WTOは自由で予測可能な国際貿易のルールを支える枠組みであり、加盟国間の通商紛争処理も担う。」を妥当な整理として扱う。

ア . A「IMF」は妥当 / B「WTO」も妥当

イ . A「IMF」は妥当 / B「WTO」は不妥当

ウ . A「IMF」は不妥当 / B「WTO」は妥当

エ . A「IMF」は不妥当 / B「WTO」も不妥当

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

答え・解説

正答：ウ

ア：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

エ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：IMFは為替・国際収支・マクロ経済の安定を支援する国際金融機関である。 Bの根拠：WTOは自由で予測可能な国際貿易のルールを支える枠組みであり、加盟国間の通商紛争処理も担う。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0024

一般知識 政治・行政・国際 > 国際関係・国際機関 | 難易度：標準

同一分野の二つの判断A・Bを検討した。評価の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：論点「WTO」について、学習メモ「WTOは自由で予測可能な国際貿易のルールを支える枠組みであり、加盟国間の通商紛争処理も担う。」を誤った整理として退ける。

B：論点「OECD」について、学習メモ「OECDは経済、税制、教育、環境、デジタルなど幅広い政策分野でデータ比較と国際的な政策協調を進める。」を誤った整理として退ける。

ア . A「WTO」は妥当 / B「OECD」も妥当

イ . A「WTO」は妥当 / B「OECD」は不妥当

ウ . A「WTO」は不妥当 / B「OECD」は妥当

エ . A「WTO」は不妥当 / B「OECD」も不妥当

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

答え・解説

正答：エ

ア：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

総合解説：Aの根拠：WTOは自由で予測可能な国際貿易のルールを支える枠組みであり、加盟国間の通商紛争処理も担う。 Bの根拠：OECDは経済、税制、教育、環境、デジタルなど幅広い政策分野でデータ比較と国際的な政策協調を進める。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0025

一般知識 政治・行政・国際 > 国際関係・国際機関 | 難易度：標準

同じ細分類について、次の学習メモA・Bの評価の組合せとして最も妥当なものはどれか。

A：論点「OECD」について、学習メモ「OECDは経済、税制、教育、環境、デジタルなど幅広い政策分野でデータ比較と国際的な政策協調を進める。」を妥当な整理として扱う。

B：論点「条約遵守」について、学習メモ「国際関係を理解する際は国際機関の制度だけでなく、日本国憲法上の条約・国際法規の位置付けも重要である。」を妥当な整理として扱う。

ア . A「OECD」は妥当 / B「条約遵守」も妥当

イ . A「OECD」は妥当 / B「条約遵守」は不妥当

ウ . A「OECD」は不妥当 / B「条約遵守」は妥当

エ . A「OECD」は不妥当 / B「条約遵守」も不妥当

答え・解説

正答：ア

ア：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

イ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：Aの評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：A・Bの双方の評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：OECDは経済、税制、教育、環境、デジタルなど幅広い政策分野でデータ比較と国際的な政策協調を進める。Bの根拠：国際関係を理解する際は国際機関の制度だけでなく、日本国憲法上の条約・国際法規の位置付けも重要である。二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0026

一般知識 政治・行政・国際 > 国際関係・国際機関 | 難易度：標準

受験生が復習ノートに次のA・Bを書いた。各記述の妥当性の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：論点「条約遵守」について、学習メモ「国際関係を理解する際は国際機関の制度だけでなく、日本国憲法上の条約・国際法規の位置付けも重要である。」を妥当な整理として扱う。

B：論点「国連機関比較」について、学習メモ「国連の主要機関はそれぞれ構成と権限が異なるため、総会・安保理・経済社会理事会・国際司法裁判所等を区別する。」を誤った整理として退ける。

ア . A「条約遵守」は妥当 / B「国連機関比較」も妥当

イ . A「条約遵守」は妥当 / B「国連機関比較」は不妥当

ウ . A「条約遵守」は不妥当 / B「国連機関比較」は妥当

エ . A「条約遵守」は不妥当 / B「国連機関比較」も不妥当

答え・解説

正答：イ

ア：Bの評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

ウ：A・Bの双方の評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：Aの評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：国際関係を理解する際は国際機関の制度だけでなく、日本国憲法上の条約・国際法規の位置付けも重要である。Bの根拠：国連の主要機関はそれぞれ構成と権限が異なるため、総会・安保理・経済社会理事会・国際司法裁判所等を区別する。二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

0027

一般知識政治・行政・国際 > 国際関係・国際機関 | 難易度：標準

次の二つの整理A・Bについて、妥当・不妥当の組合せとして正しいものはどれか。

A：論点「国連機関比較」について、学習メモ「国連の主要機関はそれぞれ構成と権限が異なるため、総会・安保理・経済社会理事会・国際司法裁判所等を区別する。」を誤った整理として退ける。

B：論点「国際司法裁判所」について、学習メモ「ICJは国連の主要司法機関であり、国家間紛争の裁判と国連機関等から求められる勧告的意見を扱う。」を妥当な整理として扱う。

ア . A「国連機関比較」は妥当 / B「国際司法裁判所」も妥当

イ . A「国連機関比較」は妥当 / B「国際司法裁判所」は不妥当

ウ . A「国連機関比較」は不妥当 / B「国際司法裁判所」は妥当

エ . A「国連機関比較」は不妥当 / B「国際司法裁判所」も不妥当

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

答え・解説

正答：ウ

ア：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

エ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：国連の主要機関はそれぞれ構成と権限が異なるため、総会・安保理・経済社会理事会・国際司法裁判所等を区別する。Bの根拠：ICJは国連の主要司法機関であり、国家間紛争の裁判と国連機関等から求められる勧告的意見を扱う。二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0028

一般知識政治・行政・国際 > 国際関係・国際機関 | 難易度：標準

同一分野の二つの判断A・Bを検討した。評価の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：論点「国際司法裁判所」について、学習メモ「ICJは国連の主要司法機関であり、国家間紛争の裁判と国連機関等から求められる勧告的意見を扱う。」を誤った整理として退ける。

B：論点「EU」について、学習メモ「EUは単なる国家間協力より深い統合を進める地域組織で、単一市場・共通政策・共通通貨圏などを形成している。」を誤った整理として退ける。

ア . A「国際司法裁判所」は妥当 / B「EU」も妥当

イ . A「国際司法裁判所」は妥当 / B「EU」は不妥当

ウ . A「国際司法裁判所」は不妥当 / B「EU」は妥当

エ . A「国際司法裁判所」は不妥当 / B「EU」も不妥当

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

答え・解説

正答：エ

ア：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

総合解説：Aの根拠：ICJは国連の主要司法機関であり、国家間紛争の裁判と国連機関等から求められる勧告的意見を扱う。Bの根拠：EUは単なる国家間協力より深い統合を進める地域組織で、単一市場・共通政策・共通通貨圏などを形成している。二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0029

一般知識 政治・行政・国際 > 国際関係・国際機関 | 難易度：応用

同じ細分類について、次の学習メモA・Bの評価の組合せとして最も妥当なものはどれか。

A：論点「EU」について、学習メモ「EUは単なる国家間協力より深い統合を進める地域組織で、単一市場・共通政策・共通通貨圏などを形成している。」を妥当な整理として扱う。

B：論点「国際協議枠組み」について、学習メモ「G7・G20は世界経済や安全保障などの政策協調に影響を持つが、法的性格は国連やWTO等と異なる。」を妥当な整理として扱う。

ア . A「EU」は妥当 / B「国際協議枠組み」も妥当

イ . A「EU」は妥当 / B「国際協議枠組み」は不妥当

ウ . A「EU」は不妥当 / B「国際協議枠組み」は妥当

エ . A「EU」は不妥当 / B「国際協議枠組み」も不妥当

答え・解説

正答：ア

ア：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

イ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：EUは単なる国家間協力より深い統合を進める地域組織で、単一市場・共通政策・共通通貨圏などを形成している。 Bの根拠：G7・G20は世界経済や安全保障などの政策協調に影響を持つが、法的性格は国連やWTO等と異なる。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0030

一般知識 政治・行政・国際 > 国際関係・国際機関 | 難易度：応用

受験生が復習 ノートに次のA・Bを書いた。各記述の妥当性の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：論点「国際協議枠組み」について、学習メモ「G7・G20は世界経済や安全保障などの政策協調に影響を持つが、法的性格は国連やWTO等と異なる。」を妥当な整理として扱う。

B：論点「国連の目的」について、学習メモ「国連は第二次世界大戦後、平和・安全、人権、開発、国際協力を柱に活動する国際機関である。」を誤った整理として退ける。

ア . A「国際協議枠組み」は妥当 / B「国連の目的」も妥当

イ . A「国際協議枠組み」は妥当 / B「国連の目的」は不妥当

ウ . A「国際協議枠組み」は不妥当 / B「国連の目的」は妥当

エ . A「国際協議枠組み」は不妥当 / B「国連の目的」も不妥当

答え・解説

正答：イ

ア：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

ウ：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：G7・G20は世界経済や安全保障などの政策協調に影響を持つが、法的性格は国連やWTO等と異なる。 Bの根拠：国連は第二次世界大戦後、平和・安全、人権、開発、国際協力を柱に活動する国際機関である。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0031

一般知識 経済・社会・時事 > 経済理論・経済指標 | 難易度：基礎

次の二つの整理A・Bについて、妥当・不妥当の組合せとして正しいものはどれか。
A：論点「GDP」について、学習メモ「GDPは経済活動の規模を測る代表的指標で、名目・実質の区別がある。」を誤った整理として退ける。
B：論点「名目・実質」について、学習メモ「経済成長を数量面で比較する場合には、物価変動を除いた実質GDPが重要となる。」を妥当な整理として扱う。

- ア . A「GDP」は妥当 / B「名目・実質」も妥当
- イ . A「GDP」は妥当 / B「名目・実質」は不妥当
- ウ . A「GDP」は不妥当 / B「名目・実質」は妥当
- エ . A「GDP」は不妥当 / B「名目・実質」も不妥当

答え・解説

正答：ウ

ア：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。
イ：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。
ウ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。
エ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。
総合解説：Aの根拠：GDPは経済活動の規模を測る代表的指標で、名目・実質の区別がある。Bの根拠：経済成長を数量面で比較する場合には、物価変動を除いた実質GDPが重要となる。二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0032

一般知識 経済・社会・時事 > 経済理論・経済指標 | 難易度：基礎

同一分野の二つの判断A・Bを検討した。評価の組合せとして最も適切なものはどれか。
A：論点「名目・実質」について、学習メモ「経済成長を数量面で比較する場合には、物価変動を除いた実質GDPが重要となる。」を誤った整理として退ける。
B：論点「CPI」について、学習メモ「CPIはインフレ・デフレの動向を把握する代表的な物価指標である。」を誤った整理として退ける。

- ア . A「名目・実質」は妥当 / B「CPI」も妥当
- イ . A「名目・実質」は妥当 / B「CPI」は不妥当
- ウ . A「名目・実質」は不妥当 / B「CPI」は妥当
- エ . A「名目・実質」は不妥当 / B「CPI」も不妥当

答え・解説

正答：エ

ア：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。
イ：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。
ウ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。
エ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。
総合解説：Aの根拠：経済成長を数量面で比較する場合には、物価変動を除いた実質GDPが重要となる。Bの根拠：CPIはインフレ・デフレの動向を把握する代表的な物価指標である。二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0033

一般知識 経済・社会・時事 > 経済理論・経済指標 | 難易度：基礎

同じ細分類について、次の学習メモA・Bの評価の組合せとして最も妥当なものはどれか。
A：論点「CPI」について、学習メモ「CPIはインフレ・デフレの動向を把握する代表的な物価指標である。」を妥当な整理として扱う。
B：論点「インフレ」について、学習メモ「名目額と実質価値を区別することは、物価上昇局面の家計・賃金を理解する基本である。」を妥当な整理として扱う。
ア . A「CPI」は妥当 / B「インフレ」も妥当
イ . A「CPI」は妥当 / B「インフレ」は不妥当
ウ . A「CPI」は不妥当 / B「インフレ」は妥当
エ . A「CPI」は不妥当 / B「インフレ」も不妥当

答え・解説

正答：ア

ア：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。
イ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。
ウ：Aの評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。
エ：A・Bの双方の評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。
総合解説：Aの根拠：CPIはインフレ・デフレの動向を把握する代表的な物価指標である。 Bの根拠：名目額と実質価値を区別することは、物価上昇局面の家計・賃金を理解する基本である。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0034

一般知識 経済・社会・時事 > 経済理論・経済指標 | 難易度：標準

受験生が復習ノートに次のA・Bを書いた。各記述の妥当性の組合せとして最も適切なものはどれか。
A：論点「インフレ」について、学習メモ「名目額と実質価値を区別することは、物価上昇局面の家計・賃金を理解する基本である。」を妥当な整理として扱う。
B：論点「完全失業率」について、学習メモ「労働力人口は就業者と完全失業者から成り、完全失業率は労働市場の需給状況を示す基本指標である。」を誤った整理として退ける。
ア . A「インフレ」は妥当 / B「完全失業率」も妥当
イ . A「インフレ」は妥当 / B「完全失業率」は不妥当
ウ . A「インフレ」は不妥当 / B「完全失業率」は妥当
エ . A「インフレ」は不妥当 / B「完全失業率」も不妥当

答え・解説

正答：イ

ア：Bの評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。
イ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。
ウ：A・Bの双方の評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。
エ：Aの評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。
総合解説：Aの根拠：名目額と実質価値を区別することは、物価上昇局面の家計・賃金を理解する基本である。 Bの根拠：労働力人口は就業者と完全失業者から成り、完全失業率は労働市場の需給状況を示す基本指標である。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0035

一般知識 経済・社会・時事 > 経済理論・経済指標 | 難易度：標準

次の二つの整理A・Bについて、妥当・不妥当の組合せとして正しいものはどれか。

A：論点「完全失業率」について、学習メモ「労働力人口は就業者と完全失業者から成り、完全失業率は労働市場の需給状況を示す基本指標である。」を誤った整理として退ける。

B：論点「財政政策」について、学習メモ「財政政策は政府の歳出・租税を通じて経済に働きかける。景気刺激と財政健全性の両立が政策課題となる。」を妥当な整理として扱う。

ア . A「完全失業率」は妥当 / B「財政政策」も妥当

イ . A「完全失業率」は妥当 / B「財政政策」は不妥当

ウ . A「完全失業率」は不妥当 / B「財政政策」は妥当

エ . A「完全失業率」は不妥当 / B「財政政策」も不妥当

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

答え・解説

正答：ウ

ア：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

エ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：労働力人口は就業者と完全失業者から成り、完全失業率は労働市場の需給状況を示す基本指標である。 Bの根拠：財政政策は政府の歳出・租税を通じて経済に働きかける。景気刺激と財政健全性の両立が政策課題となる。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0036

一般知識 経済・社会・時事 > 経済理論・経済指標 | 難易度：標準

同一分野の二つの判断A・Bを検討した。評価の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：論点「財政政策」について、学習メモ「財政政策は政府の歳出・租税を通じて経済に働きかける。景気刺激と財政健全性の両立が政策課題となる。」を誤った整理として退ける。

B：論点「金融政策」について、学習メモ「日本銀行は金融政策を通じて物価の安定を図り、国民経済の健全な発展に資することを目的とする。」を誤った整理として退ける。

ア . A「財政政策」は妥当 / B「金融政策」も妥当

イ . A「財政政策」は妥当 / B「金融政策」は不妥当

ウ . A「財政政策」は不妥当 / B「金融政策」は妥当

エ . A「財政政策」は不妥当 / B「金融政策」も不妥当

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

答え・解説

正答：エ

ア：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

総合解説：Aの根拠：財政政策は政府の歳出・租税を通じて経済に働きかける。景気刺激と財政健全性の両立が政策課題となる。 Bの根拠：日本銀行は金融政策を通じて物価の安定を図り、国民経済の健全な発展に資することを目的とする。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0037

一般知識 経済・社会・時事 > 経済理論・経済指標 | 難易度：標準

同じ細分類について、次の学習メモA・Bの評価の組合せとして最も妥当なものはどれか。

A：論点「金融政策」について、学習メモ「日本銀行は金融政策を通じて物価の安定を図り、国民経済の健全な発展に資することを目的とする。」を妥当な整理として扱う。

B：論点「為替」について、学習メモ「為替変動は輸出企業・輸入企業・家計物価に異なる影響を与えるため、一方向の善悪だけでは評価できない。」を妥当な整理として扱う。

ア . A「金融政策」は妥当 / B「為替」も妥当

イ . A「金融政策」は妥当 / B「為替」は不妥当

ウ . A「金融政策」は不妥当 / B「為替」は妥当

エ . A「金融政策」は不妥当 / B「為替」も不妥当

答え・解説

正答：ア

ア：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

イ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：日本銀行は金融政策を通じて物価の安定を図り、国民経済の健全な発展に資することを目的とする。Bの根拠：為替変動は輸出企業・輸入企業・家計物価に異なる影響を与えるため、一方向の善悪だけでは評価できない。二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0038

一般知識 経済・社会・時事 > 経済理論・経済指標 | 難易度：標準

受験生が復習ノートに次のA・Bを書いた。各記述の妥当性の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：論点「為替」について、学習メモ「為替変動は輸出企業・輸入企業・家計物価に異なる影響を与えるため、一方向の善悪だけでは評価できない。」を妥当な整理として扱う。

B：論点「需要供給」について、学習メモ「需給分析では、曲線上の移動と曲線自体のシフトを区別して考えることが重要である。」を誤った整理として退ける。

ア . A「為替」は妥当 / B「需要供給」も妥当

イ . A「為替」は妥当 / B「需要供給」は不妥当

ウ . A「為替」は不妥当 / B「需要供給」は妥当

エ . A「為替」は不妥当 / B「需要供給」も不妥当

答え・解説

正答：イ

ア：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

ウ：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：為替変動は輸出企業・輸入企業・家計物価に異なる影響を与えるため、一方向の善悪だけでは評価できない。Bの根拠：需給分析では、曲線上の移動と曲線自体のシフトを区別して考えることが重要である。二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0039

一般知識 経済・社会・時事 > 経済理論・経済指標 | 難易度：応用

次の二つの整理A・Bについて、妥当・不妥当の組合せとして正しいものはどれか。

A：論点「需要供給」について、学習メモ「需給分析では、曲線上の移動と曲線自体のシフトを区別して考えることが重要である。」を誤った整理として退ける。

B：論点「GDP・GNI」について、学習メモ「国境内の生産をみるGDPと、居住者ベースの所得をみるGNIを区別すると国際所得移転の影響を理解しやすい。」を妥当な整理として扱う。

ア . A「需要供給」は妥当 / B「GDP・GNI」も妥当

イ . A「需要供給」は妥当 / B「GDP・GNI」は不妥当

ウ . A「需要供給」は不妥当 / B「GDP・GNI」は妥当

エ . A「需要供給」は不妥当 / B「GDP・GNI」も不妥当

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

答え・解説

正答：ウ

ア：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

エ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：需給分析では、曲線上の移動と曲線自体のシフトを区別して考えることが重要である。Bの根拠：国境内の生産をみるGDPと、居住者ベースの所得をみるGNIを区別すると国際所得移転の影響を理解しやすい。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0040

一般知識 経済・社会・時事 > 経済理論・経済指標 | 難易度：応用

同一分野の二つの判断A・Bを検討した。評価の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：論点「GDP・GNI」について、学習メモ「国境内の生産をみるGDPと、居住者ベースの所得をみるGNIを区別すると国際所得移転の影響を理解しやすい。」を誤った整理として退ける。

B：論点「GDP」について、学習メモ「GDPは経済活動の規模を測る代表的指標で、名目・実質の区別がある。」を誤った整理として退ける。

ア . A「GDP・GNI」は妥当 / B「GDP」も妥当

イ . A「GDP・GNI」は妥当 / B「GDP」は不妥当

ウ . A「GDP・GNI」は不妥当 / B「GDP」は妥当

エ . A「GDP・GNI」は不妥当 / B「GDP」も不妥当

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

答え・解説

正答：エ

ア：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

総合解説：Aの根拠：国境内の生産をみるGDPと、居住者ベースの所得をみるGNIを区別すると国際所得移転の影響を理解しやすい。Bの根拠：GDPは経済活動の規模を測る代表的指標で、名目・実質の区別がある。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0041

一般知識 経済・社会・時事 > 社会保障・人口・労働 | 難易度：基礎

同じ細分類について、次の学習メモA・Bの評価の組合せとして最も妥当なものはどれか。

A：論点「社会保障」について、学習メモ「社会保障は疾病、老齢、失業、生活困窮などの生活上のリスクに対応する制度群である。」を妥当な整理として扱う。

B：論点「公的年金」について、学習メモ「公的年金は老齢だけでなく障害・遺族の所得保障機能も持つ。」を妥当な整理として扱う。

ア . A「社会保障」は妥当 / B「公的年金」も妥当

イ . A「社会保障」は妥当 / B「公的年金」は不妥当

ウ . A「社会保障」は不妥当 / B「公的年金」は妥当

エ . A「社会保障」は不妥当 / B「公的年金」も不妥当

答え・解説

正答：ア

ア：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

イ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：社会保障は疾病、老齢、失業、生活困窮などの生活上のリスクに対応する制度群である。 Bの根拠：公的年金は老齢だけでなく障害・遺族の所得保障機能も持つ。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0042

一般知識 経済・社会・時事 > 社会保障・人口・労働 | 難易度：基礎

受験生が復習 ノートに次のA・Bを書いた。各記述の妥当性の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：論点「公的年金」について、学習メモ「公的年金は老齢だけでなく障害・遺族の所得保障機能も持つ。」を妥当な整理として扱う。

B：論点「医療保険」について、学習メモ「日本では原則としてすべての国民が公的医療保険に加入する国民皆保険を採用している。」を誤った整理として退ける。

ア . A「公的年金」は妥当 / B「医療保険」も妥当

イ . A「公的年金」は妥当 / B「医療保険」は不妥当

ウ . A「公的年金」は不妥当 / B「医療保険」は妥当

エ . A「公的年金」は不妥当 / B「医療保険」も不妥当

答え・解説

正答：イ

ア：Bの評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

ウ：A・Bの双方の評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：Aの評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：公的年金は老齢だけでなく障害・遺族の所得保障機能も持つ。 Bの根拠：日本では原則としてすべての国民が公的医療保険に加入する国民皆保険を採用している。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0043

一般知識 経済・社会・時事 > 社会保障・人口・労働 | 難易度：基礎

次の二つの整理A・Bについて、妥当・不妥当の組合せとして正しいものはどれか。

A：論点「医療保険」について、学習メモ「日本では原則としてすべての国民が公的医療保険に加入する国民皆保険を採用している。」を誤った整理として退ける。

B：論点「少子高齢化」について、学習メモ「人口減少・高齢化は年金、医療、介護、労働市場、地域社会に複合的な影響を及ぼす。」を妥当な整理として扱う。

ア . A「医療保険」は妥当 / B「少子高齢化」も妥当

イ . A「医療保険」は妥当 / B「少子高齢化」は不妥当

ウ . A「医療保険」は不妥当 / B「少子高齢化」は妥当

エ . A「医療保険」は不妥当 / B「少子高齢化」も不妥当

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

答え・解説

正答：ウ

ア：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

エ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：日本では原則としてすべての国民が公的医療保険に加入する国民皆保険を採用している。Bの根拠：人口減少・高齢化は年金、医療、介護、労働市場、地域社会に複合的な影響を及ぼす。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0044

一般知識 経済・社会・時事 > 社会保障・人口・労働 | 難易度：標準

同一分野の二つの判断A・Bを検討した。評価の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：論点「少子高齢化」について、学習メモ「人口減少・高齢化は年金、医療、介護、労働市場、地域社会に複合的な影響を及ぼす。」を誤った整理として退ける。

B：論点「人口構造」について、学習メモ「年少人口・生産年齢人口・老年人口の比率は、社会保障や労働供給を考える基礎指標である。」を誤った整理として退ける。

ア . A「少子高齢化」は妥当 / B「人口構造」も妥当

イ . A「少子高齢化」は妥当 / B「人口構造」は不妥当

ウ . A「少子高齢化」は不妥当 / B「人口構造」は妥当

エ . A「少子高齢化」は不妥当 / B「人口構造」も不妥当

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

答え・解説

正答：エ

ア：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

総合解説：Aの根拠：人口減少・高齢化は年金、医療、介護、労働市場、地域社会に複合的な影響を及ぼす。Bの根拠：年少人口・生産年齢人口・老年人口の比率は、社会保障や労働供給を考える基礎指標である。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0045

一般知識 経済・社会・時事 > 社会保障・人口・労働 | 難易度：標準

同じ細分類について、次の学習メモA・Bの評価の組合せとして最も妥当なものはどれか。

A：論点「人口構造」について、学習メモ「年少人口・生産年齢人口・老年人口の比率は、社会保障や労働供給を考える基礎指標である。」を妥当な整理として扱う。

B：論点「労働力人口」について、学習メモ「就業者・完全失業者・非労働力人口を区別することが失業率や労働参加率を理解する基礎になる。」を妥当な整理として扱う。

ア . A「人口構造」は妥当 / B「労働力人口」も妥当

イ . A「人口構造」は妥当 / B「労働力人口」は不妥当

ウ . A「人口構造」は不妥当 / B「労働力人口」は妥当

エ . A「人口構造」は不妥当 / B「労働力人口」も不妥当

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

答え・解説

正答：ア

ア：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

イ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：年少人口・生産年齢人口・老年人口の比率は、社会保障や労働供給を考える基礎指標である。Bの根拠：就業者・完全失業者・非労働力人口を区別することが失業率や労働参加率を理解する基礎になる。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0046

一般知識 経済・社会・時事 > 社会保障・人口・労働 | 難易度：標準

受験生が復習 ノートに次のA・Bを書いた。各記述の妥当性の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：論点「労働力人口」について、学習メモ「就業者・完全失業者・非労働力人口を区別することが失業率や労働参加率を理解する基礎になる。」を妥当な整理として扱う。

B：論点「雇用保険」について、学習メモ「雇用保険は失業等給付だけでなく、雇用安定・能力開発等の事業も含む。」を誤った整理として退ける。

ア . A「労働力人口」は妥当 / B「雇用保険」も妥当

イ . A「労働力人口」は妥当 / B「雇用保険」は不妥当

ウ . A「労働力人口」は不妥当 / B「雇用保険」は妥当

エ . A「労働力人口」は不妥当 / B「雇用保険」も不妥当

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

答え・解説

正答：イ

ア：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

ウ：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：就業者・完全失業者・非労働力人口を区別することが失業率や労働参加率を理解する基礎になる。Bの根拠：雇用保険は失業等給付だけでなく、雇用安定・能力開発等の事業も含む。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0047

一般知識 経済・社会・時事 > 社会保障・人口・労働 | 難易度：標準

次の二つの整理A・Bについて、妥当・不妥当の組合せとして正しいものはどれか。

A：論点「雇用保険」について、学習メモ「雇用保険は失業等給付だけでなく、雇用安定・能力開発等の事業も含む。」を誤った整理として退ける。

B：論点「労働時間」について、学習メモ「法定労働時間を超える時間外労働には36協定等の要件や上限規制が関係する。」を妥当な整理として扱う。

ア . A「雇用保険」は妥当 / B「労働時間」も妥当

イ . A「雇用保険」は妥当 / B「労働時間」は不妥当

ウ . A「雇用保険」は不妥当 / B「労働時間」は妥当

エ . A「雇用保険」は不妥当 / B「労働時間」も不妥当

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

答え・解説

正答：ウ

ア：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

エ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：雇用保険は失業等給付だけでなく、雇用安定・能力開発等の事業も含む。 Bの根拠：法定労働時間を超える時間外労働には36協定等の要件や上限規制が関係する。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0048

一般知識 経済・社会・時事 > 社会保障・人口・労働 | 難易度：標準

同一分野の二つの判断A・Bを検討した。評価の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：論点「労働時間」について、学習メモ「法定労働時間を超える時間外労働には36協定等の要件や上限規制が関係する。」を誤った整理として退ける。

B：論点「人口減少」について、学習メモ「人口減少は地域ごとに進捗度が異なり、公共サービスの集約・デジタル化・広域連携等が政策課題となる。」を誤った整理として退ける。

ア . A「労働時間」は妥当 / B「人口減少」も妥当

イ . A「労働時間」は妥当 / B「人口減少」は不妥当

ウ . A「労働時間」は不妥当 / B「人口減少」は妥当

エ . A「労働時間」は不妥当 / B「人口減少」も不妥当

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

答え・解説

正答：エ

ア：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

総合解説：Aの根拠：法定労働時間を超える時間外労働には36協定等の要件や上限規制が関係する。 Bの根拠：人口減少は地域ごとに進捗度が異なり、公共サービスの集約・デジタル化・広域連携等が政策課題となる。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

0049

一般知識 経済・社会・時事 > 社会保障・人口・労働 | 難易度：応用

同じ細分類について、次の学習メモA・Bの評価の組合せとして最も妥当なものはどれか。
A：論点「人口減少」について、学習メモ「人口減少は地域ごとに進行度が異なり、公共サービスの集約・デジタル化・広域連携等が政策課題となる。」を妥当な整理として扱う。
B：論点「社会保険・公的扶助」について、学習メモ「社会保障は保険原理を用いる制度と、租税を基礎に最低生活を保障する制度など複数の仕組みを組み合わせている。」を妥当な整理として扱う。

ア．A「人口減少」は妥当 / B「社会保険・公的扶助」も妥当
イ．A「人口減少」は妥当 / B「社会保険・公的扶助」は不妥当
ウ．A「人口減少」は不妥当 / B「社会保険・公的扶助」は妥当
エ．A「人口減少」は不妥当 / B「社会保険・公的扶助」も不妥当

答え・解説

正答：ア

ア：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。
イ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。
ウ：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。
エ：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。
総合解説：Aの根拠：人口減少は地域ごとに進行度が異なり、公共サービスの集約・デジタル化・広域連携等が政策課題となる。 Bの根拠：社会保障は保険原理を用いる制度と、租税を基礎に最低生活を保障する制度など複数の仕組みを組み合わせている。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0050

一般知識 経済・社会・時事 > 社会保障・人口・労働 | 難易度：応用

受験生が復習ノートに次のA・Bを書いた。各記述の妥当性の組合せとして最も適切なものはどれか。
A：論点「社会保険・公的扶助」について、学習メモ「社会保障は保険原理を用いる制度と、租税を基礎に最低生活を保障する制度など複数の仕組みを組み合わせている。」を妥当な整理として扱う。
B：論点「社会保障」について、学習メモ「社会保障は疾病、老齢、失業、生活困窮などの生活上のリスクに対応する制度群である。」を誤った整理として退ける。

ア．A「社会保険・公的扶助」は妥当 / B「社会保障」も妥当
イ．A「社会保険・公的扶助」は妥当 / B「社会保障」は不妥当
ウ．A「社会保険・公的扶助」は不妥当 / B「社会保障」は妥当
エ．A「社会保険・公的扶助」は不妥当 / B「社会保障」も不妥当

答え・解説

正答：イ

ア：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。
イ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。
ウ：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。
エ：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。
総合解説：Aの根拠：社会保障は保険原理を用いる制度と、租税を基礎に最低生活を保障する制度など複数の仕組みを組み合わせている。 Bの根拠：社会保障は疾病、老齢、失業、生活困窮などの生活上のリスクに対応する制度群である。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0051

一般知識 経済・社会・時事 > 時事・社会問題 | 難易度：基礎

次の二つの整理A・Bについて、妥当・不妥当の組合せとして正しいものはどれか。

A：論点「人口減少」について、学習メモ「人口減少と高齢化は社会保障、労働、地域政策など多くの政策分野の前提条件となっている。」を誤った整理として退ける。

B：論点「SDGs」について、学習メモ「SDGsは貧困、教育、健康、ジェンダー、気候、平和など17目標を掲げる国際的な政策枠組みである。」を妥当な整理として扱う。

ア . A「人口減少」は妥当 / B「SDGs」も妥当

イ . A「人口減少」は妥当 / B「SDGs」は不妥当

ウ . A「人口減少」は不妥当 / B「SDGs」は妥当

エ . A「人口減少」は不妥当 / B「SDGs」も不妥当

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

答え・解説

正答：ウ

ア：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

エ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：人口減少と高齢化は社会保障、労働、地域政策など多くの政策分野の前提条件となっている。Bの根拠：SDGsは貧困、教育、健康、ジェンダー、気候、平和など17目標を掲げる国際的な政策枠組みである。二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0052

一般知識 経済・社会・時事 > 時事・社会問題 | 難易度：基礎

同一分野の二つの判断A・Bを検討した。評価の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：論点「SDGs」について、学習メモ「SDGsは貧困、教育、健康、ジェンダー、気候、平和など17目標を掲げる国際的な政策枠組みである。」を誤った整理として退ける。

B：論点「脱炭素」について、学習メモ「カーボンニュートラルは排出量から吸収・除去量を差し引いた実質ゼロを目指す概念である。」を誤った整理として退ける。

ア . A「SDGs」は妥当 / B「脱炭素」も妥当

イ . A「SDGs」は妥当 / B「脱炭素」は不妥当

ウ . A「SDGs」は不妥当 / B「脱炭素」は妥当

エ . A「SDGs」は不妥当 / B「脱炭素」も不妥当

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

答え・解説

正答：エ

ア：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

総合解説：Aの根拠：SDGsは貧困、教育、健康、ジェンダー、気候、平和など17目標を掲げる国際的な政策枠組みである。Bの根拠：カーボンニュートラルは排出量から吸収・除去量を差し引いた実質ゼロを目指す概念である。二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0053

一般知識 経済・社会・時事 > 時事・社会問題 | 難易度：基礎

同じ細分類について、次の学習メモA・Bの評価の組合せとして最も妥当なものはどれか。

A：論点「脱炭素」について、学習メモ「カーボンニュートラルは排出量から吸収・除去量を差し引いた実質ゼロを目指す概念である。」を妥当な整理として扱う。

B：論点「AIガバナンス」について、学習メモ「AI政策ではイノベーション促進とリスク管理を両立させるガバナンスが国際的な課題となっている。」を妥当な整理として扱う。

ア . A「脱炭素」は妥当 / B「AIガバナンス」も妥当

イ . A「脱炭素」は妥当 / B「AIガバナンス」は不妥当

ウ . A「脱炭素」は不妥当 / B「AIガバナンス」は妥当

エ . A「脱炭素」は不妥当 / B「AIガバナンス」も不妥当

答え・解説

正答：ア

ア：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

イ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：Aの評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：A・Bの双方の評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：カーボンニュートラルは排出量から吸収・除去量を差し引いた実質ゼロを目指す概念である。Bの根拠：AI政策ではイノベーション促進とリスク管理を両立させるガバナンスが国際的な課題となっている。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0054

一般知識 経済・社会・時事 > 時事・社会問題 | 難易度：標準

受験生が復習ノートに次のA・Bを書いた。各記述の妥当性の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：論点「AIガバナンス」について、学習メモ「AI政策ではイノベーション促進とリスク管理を両立させるガバナンスが国際的な課題となっている。」を妥当な整理として扱う。

B：論点「サイバーセキュリティ」について、学習メモ「サイバーセキュリティは情報保護だけでなく、行政・金融・交通・医療等のサービス継続に関わる社会基盤の課題である。」を誤った整理として退ける。

ア . A「AIガバナンス」は妥当 / B「サイバーセキュリティ」も妥当

イ . A「AIガバナンス」は妥当 / B「サイバーセキュリティ」は不妥当

ウ . A「AIガバナンス」は不妥当 / B「サイバーセキュリティ」は妥当

エ . A「AIガバナンス」は不妥当 / B「サイバーセキュリティ」も不妥当

答え・解説

正答：イ

ア：Bの評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

ウ：A・Bの双方の評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：Aの評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：AI政策ではイノベーション促進とリスク管理を両立させるガバナンスが国際的な課題となっている。Bの根拠：サイバーセキュリティは情報保護だけでなく、行政・金融・交通・医療等のサービス継続に関わる社会基盤の課題である。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0055

一般知識 経済・社会・時事 > 時事・社会問題 | 難易度：標準

次の二つの整理A・Bについて、妥当・不妥当の組合せとして正しいものはどれか。
A：論点「サイバーセキュリティ」について、学習メモ「サイバーセキュリティは情報保護だけでなく、行政・金融・交通・医療等のサービス継続に関わる社会基盤の課題である。」を誤った整理として退ける。
B：論点「行政DX」について、学習メモ「行政DXではオンライン化だけでなく、業務改革、データ連携、本人確認、アクセシビリティなども重要となる。」を妥当な整理として扱う。

- ア．A「サイバーセキュリティ」は妥当 / B「行政DX」も妥当
イ．A「サイバーセキュリティ」は妥当 / B「行政DX」は不妥当
ウ．A「サイバーセキュリティ」は不妥当 / B「行政DX」は妥当
エ．A「サイバーセキュリティ」は不妥当 / B「行政DX」も不妥当

答え・解説

正答：ウ

ア：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。
イ：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。
ウ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。
エ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。
総合解説：Aの根拠：サイバーセキュリティは情報保護だけでなく、行政・金融・交通・医療等のサービス継続に関わる社会基盤の課題である。 Bの根拠：行政DXではオンライン化だけでなく、業務改革、データ連携、本人確認、アクセシビリティなども重要となる。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0056

一般知識 経済・社会・時事 > 時事・社会問題 | 難易度：標準

同一分野の二つの判断A・Bを検討した。評価の組合せとして最も適切なものはどれか。
A：論点「行政DX」について、学習メモ「行政DXではオンライン化だけでなく、業務改革、データ連携、本人確認、アクセシビリティなども重要となる。」を誤った整理として退ける。
B：論点「防災・減災」について、学習メモ「防災は事前対策、避難、復旧・復興まで含む総合的なリスク管理として考える必要がある。」を誤った整理として退ける。

- ア．A「行政DX」は妥当 / B「防災・減災」も妥当
イ．A「行政DX」は妥当 / B「防災・減災」は不妥当
ウ．A「行政DX」は不妥当 / B「防災・減災」は妥当
エ．A「行政DX」は不妥当 / B「防災・減災」も不妥当

答え・解説

正答：エ

ア：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。
イ：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。
ウ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。
エ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。
総合解説：Aの根拠：行政DXではオンライン化だけでなく、業務改革、データ連携、本人確認、アクセシビリティなども重要となる。 Bの根拠：防災は事前対策、避難、復旧・復興まで含む総合的なリスク管理として考える必要がある。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0057

一般知識 経済・社会・時事 > 時事・社会問題 | 難易度：標準

同じ細分類について、次の学習メモA・Bの評価の組合せとして最も妥当なものはどれか。

A：論点「防災・減災」について、学習メモ「防災は事前対策、避難、復旧・復興まで含む総合的なリスク管理として考える必要がある。」を妥当な整理として扱う。

B：論点「エネルギー安全保障」について、学習メモ「日本では資源輸入依存度が高く、脱炭素と安定供給・経済性の同時達成が重要な政策課題となる。」を妥当な整理として扱う。

ア . A「防災・減災」は妥当 / B「エネルギー安全保障」も妥当

イ . A「防災・減災」は妥当 / B「エネルギー安全保障」は不妥当

ウ . A「防災・減災」は不妥当 / B「エネルギー安全保障」は妥当

エ . A「防災・減災」は不妥当 / B「エネルギー安全保障」も不妥当

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

答え・解説

正答：ア

ア：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

イ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：A・Bの双方の評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：防災は事前対策、避難、復旧・復興まで含む総合的なリスク管理として考える必要がある。Bの根拠：日本では資源輸入依存度が高く、脱炭素と安定供給・経済性の同時達成が重要な政策課題となる。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0058

一般知識 経済・社会・時事 > 時事・社会問題 | 難易度：標準

受験生が復習ノートに次のA・Bを書いた。各記述の妥当性の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：論点「エネルギー安全保障」について、学習メモ「日本では資源輸入依存度が高く、脱炭素と安定供給・経済性の同時達成が重要な政策課題となる。」を妥当な整理として扱う。

B：論点「偽・誤情報」について、学習メモ「偽・誤情報対策では過剰規制を避けながら、発信者・プラットフォーム・利用者それぞれの役割を考える必要がある。」を誤った整理として退ける。

ア . A「エネルギー安全保障」は妥当 / B「偽・誤情報」も妥当

イ . A「エネルギー安全保障」は妥当 / B「偽・誤情報」は不妥当

ウ . A「エネルギー安全保障」は不妥当 / B「偽・誤情報」は妥当

エ . A「エネルギー安全保障」は不妥当 / B「偽・誤情報」も不妥当

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

答え・解説

正答：イ

ア：Bの評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

ウ：A・Bの双方の評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：Aの評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：日本では資源輸入依存度が高く、脱炭素と安定供給・経済性の同時達成が重要な政策課題となる。Bの根拠：偽・誤情報対策では過剰規制を避けながら、発信者・プラットフォーム・利用者それぞれの役割を考える必要がある。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0059

一般知識 経済・社会・時事 > 時事・社会問題 | 難易度：応用

次の二つの整理A・Bについて、妥当・不妥当の組合せとして正しいものはどれか。

A：論点「偽・誤情報」について、学習メモ「偽・誤情報対策では過剰規制を避けながら、発信者・プラットフォーム・利用者それぞれの役割を考える必要がある。」を誤った整理として退ける。

B：論点「複合社会課題」について、学習メモ「現代の政策判断では単一指標だけでなく、財政、地域、環境、技術、包摂性など複数の観点を統合して評価する必要がある。」を妥当な整理として扱う。

ア . A「偽・誤情報」は妥当 / B「複合社会課題」も妥当

イ . A「偽・誤情報」は妥当 / B「複合社会課題」は不妥当

ウ . A「偽・誤情報」は不妥当 / B「複合社会課題」は妥当

エ . A「偽・誤情報」は不妥当 / B「複合社会課題」も不妥当

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

答え・解説

正答：ウ

ア：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

エ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：偽・誤情報対策では過剰規制を避けながら、発信者・プラットフォーム・利用者それぞれの役割を考える必要がある。Bの根拠：現代の政策判断では単一指標だけでなく、財政、地域、環境、技術、包摂性など複数の観点を統合して評価する必要がある。二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0060

一般知識 経済・社会・時事 > 時事・社会問題 | 難易度：応用

同一分野の二つの判断A・Bを検討した。評価の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：論点「複合社会課題」について、学習メモ「現代の政策判断では単一指標だけでなく、財政、地域、環境、技術、包摂性など複数の観点を統合して評価する必要がある。」を誤った整理として退ける。

B：論点「人口減少」について、学習メモ「人口減少と高齢化は社会保障、労働、地域政策など多くの政策分野の前提条件となっている。」を誤った整理として退ける。

ア . A「複合社会課題」は妥当 / B「人口減少」も妥当

イ . A「複合社会課題」は妥当 / B「人口減少」は不妥当

ウ . A「複合社会課題」は不妥当 / B「人口減少」は妥当

エ . A「複合社会課題」は不妥当 / B「人口減少」も不妥当

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

答え・解説

正答：エ

ア：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

総合解説：Aの根拠：現代の政策判断では単一指標だけでなく、財政、地域、環境、技術、包摂性など複数の観点を統合して評価する必要がある。Bの根拠：人口減少と高齢化は社会保障、労働、地域政策など多くの政策分野の前提条件となっている。二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0061

行政書士法等関連諸法令 > 行政書士法 | 難易度：基礎

同じ細分類について、次の学習メモA・Bの評価の組合せとして最も妥当なものはどれか。

A：論点「使命」について、学習メモ「令和7年法律65号により、2026年1月1日から行政書士の「使命」と「職責」が明確化された。」を妥当な整理として扱う。

B：論点「基本業務」について、学習メモ「行政書士の書類作成業務には電磁的記録も含まれるが、他の法律で業務が制限される事項は扱えない。」を妥当な整理として扱う。

ア . A「使命」は妥当 / B「基本業務」も妥当

イ . A「使命」は妥当 / B「基本業務」は不妥当

ウ . A「使命」は不妥当 / B「基本業務」は妥当

エ . A「使命」は不妥当 / B「基本業務」も不妥当

答え・解説

正答：ア

ア：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

イ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：令和7年法律65号により、2026年1月1日から行政書士の「使命」と「職責」が明確化された。Bの根拠：行政書士の書類作成業務には電磁的記録も含まれるが、他の法律で業務が制限される事項は扱えない。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

0062

行政書士法等関連諸法令 > 行政書士法 | 難易度：基礎

受験生が復習ノートに次のA・Bを書いた。各記述の妥当性の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：論点「基本業務」について、学習メモ「行政書士の書類作成業務には電磁的記録も含まれるが、他の法律で業務が制限される事項は扱えない。」を妥当な整理として扱う。

B：論点「登録」について、学習メモ「行政書士の資格保有と行政書士としての登録は区別され、登録は日本行政書士会連合会が行う。」を誤った整理として退ける。

ア . A「基本業務」は妥当 / B「登録」も妥当

イ . A「基本業務」は妥当 / B「登録」は不妥当

ウ . A「基本業務」は不妥当 / B「登録」は妥当

エ . A「基本業務」は不妥当 / B「登録」も不妥当

答え・解説

正答：イ

ア：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

ウ：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：行政書士の書類作成業務には電磁的記録も含まれるが、他の法律で業務が制限される事項は扱えない。Bの根拠：行政書士の資格保有と行政書士としての登録は区別され、登録は日本行政書士会連合会が行う。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

0063

行政書士法等関連諸法令 > 行政書士法 | 難易度：基礎

次の二つの整理A・Bについて、妥当・不妥当の組合せとして正しいものはどれか。

A：論点「登録」について、学習メモ「行政書士の資格保有と行政書士としての登録は区別され、登録は日本行政書士会連合会が行う。」を誤った整理として退ける。

B：論点「事務所」について、学習メモ「独立行政書士の事務所は業務の拠点として一つに限定され、使用人である行政書士等には別の規律がある。」を妥当な整理として扱う。

ア . A「登録」は妥当 / B「事務所」も妥当

イ . A「登録」は妥当 / B「事務所」は不妥当

ウ . A「登録」は不妥当 / B「事務所」は妥当

エ . A「登録」は不妥当 / B「事務所」も不妥当

答え・解説

正答：ウ

ア：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

エ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：行政書士の資格保有と行政書士としての登録は区別され、登録は日本行政書士会連合会が行う。Bの根拠：独立行政書士の事務所は業務の拠点として一つに限定され、使用人である行政書士等には別の規律がある。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

0064

行政書士法等関連諸法令 > 行政書士法 | 難易度：標準

同一分野の二つの判断A・Bを検討した。評価の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：論点「事務所」について、学習メモ「独立行政書士の事務所は業務の拠点として一つに限定され、使用人である行政書士等には別の規律がある。」を誤った整理として退ける。

B：論点「帳簿」について、学習メモ「帳簿の備付け・保存は業務の透明性や監督の実効性を確保するための基本義務である。」を誤った整理として退ける。

ア . A「事務所」は妥当 / B「帳簿」も妥当

イ . A「事務所」は妥当 / B「帳簿」は不妥当

ウ . A「事務所」は不妥当 / B「帳簿」は妥当

エ . A「事務所」は不妥当 / B「帳簿」も不妥当

答え・解説

正答：エ

ア：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

総合解説：Aの根拠：独立行政書士の事務所は業務の拠点として一つに限定され、使用人である行政書士等には別の規律がある。Bの根拠：帳簿の備付け・保存は業務の透明性や監督の実効性を確保するための基本義務である。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

0065

行政書士法等関連諸法令 > 行政書士法 | 難易度：標準

同じ細分類について、次の学習メモA・Bの評価の組合せとして最も妥当なものはどれか。
A：論点「帳簿」について、学習メモ「帳簿の備付け・保存は業務の透明性や監督の実効性を確保するための基本義務である。」を妥当な整理として扱う。
B：論点「依頼応諾義務」について、学習メモ「依頼応諾義務は専門職としての公共的役割を反映するが、利益相反など正当な拒絶理由がある場合まで強制するものではない。」を妥当な整理として扱う。

- ア . A「帳簿」は妥当 / B「依頼応諾義務」も妥当
- イ . A「帳簿」は妥当 / B「依頼応諾義務」は不妥当
- ウ . A「帳簿」は不妥当 / B「依頼応諾義務」は妥当
- エ . A「帳簿」は不妥当 / B「依頼応諾義務」も不妥当

答え・解説

正答：ア

ア：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。
イ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。
ウ：Aの評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。
エ：A・Bの双方の評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。
総合解説：Aの根拠：帳簿の備付け・保存は業務の透明性や監督の実効性を確保するための基本義務である。Bの根拠：依頼応諾義務は専門職としての公共的役割を反映するが、利益相反など正当な拒絶理由がある場合まで強制するものではない。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

0066

行政書士法等関連諸法令 > 行政書士法 | 難易度：標準

受験生が復習 ノートに次のA・Bを書いた。各記述の妥当性の組合せとして最も適切なものはどれか。
A：論点「依頼応諾義務」について、学習メモ「依頼応諾義務は専門職としての公共的役割を反映するが、利益相反など正当な拒絶理由がある場合まで強制するものではない。」を妥当な整理として扱う。
B：論点「守秘義務」について、学習メモ「守秘義務は依頼者との信頼関係の基礎であり、違反には罰則も設けられている。」を誤った整理として退ける。

- ア . A「依頼応諾義務」は妥当 / B「守秘義務」も妥当
- イ . A「依頼応諾義務」は妥当 / B「守秘義務」は不妥当
- ウ . A「依頼応諾義務」は不妥当 / B「守秘義務」は妥当
- エ . A「依頼応諾義務」は不妥当 / B「守秘義務」も不妥当

答え・解説

正答：イ

ア：Bの評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。
イ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。
ウ：A・Bの双方の評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。
エ：Aの評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。
総合解説：Aの根拠：依頼応諾義務は専門職としての公共的役割を反映するが、利益相反など正当な拒絶理由がある場合まで強制するものではない。Bの根拠：守秘義務は依頼者との信頼関係の基礎であり、違反には罰則も設けられている。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

0067

行政書士法等関連諸法令 > 行政書士法 | 難易度：標準

次の二つの整理A・Bについて、妥当・不妥当の組合せとして正しいものはどれか。

A：論点「守秘義務」について、学習メモ「守秘義務は依頼者との信頼関係の基礎であり、違反には罰則も設けられている。」を誤った整理として退ける。

B：論点「デジタル対応」について、学習メモ「2026年改正は士業法で初めてデジタル社会への対応に関する努力義務を明記した点が重要である。」を妥当な整理として扱う。

ア . A「守秘義務」は妥当 / B「デジタル対応」も妥当

イ . A「守秘義務」は妥当 / B「デジタル対応」は不妥当

ウ . A「守秘義務」は不妥当 / B「デジタル対応」は妥当

エ . A「守秘義務」は不妥当 / B「デジタル対応」も不妥当

答え・解説

正答：ウ

ア：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

エ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：守秘義務は依頼者との信頼関係の基礎であり、違反には罰則も設けられている。Bの根拠：2026年改正は士業法で初めてデジタル社会への対応に関する努力義務を明記した点が重要である。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

0068

行政書士法等関連諸法令 > 行政書士法 | 難易度：標準

同一分野の二つの判断A・Bを検討した。評価の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：論点「デジタル対応」について、学習メモ「2026年改正は士業法で初めてデジタル社会への対応に関する努力義務を明記した点が重要である。」を誤った整理として退ける。

B：論点「特定行政書士」について、学習メモ「改正前の「行政書士が作成した」書類から「行政書士が作成することができる」書類へと対象が広がった点が出題上重要である。」を誤った整理として退ける。

ア . A「デジタル対応」は妥当 / B「特定行政書士」も妥当

イ . A「デジタル対応」は妥当 / B「特定行政書士」は不妥当

ウ . A「デジタル対応」は不妥当 / B「特定行政書士」は妥当

エ . A「デジタル対応」は不妥当 / B「特定行政書士」も不妥当

答え・解説

正答：エ

ア：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

総合解説：Aの根拠：2026年改正は士業法で初めてデジタル社会への対応に関する努力義務を明記した点が重要である。Bの根拠：改正前の「行政書士が作成した」書類から「行政書士が作成することができる」書類へと対象が広がった点が出題上重要である。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

0069

行政書士法等関連諸法令 > 行政書士法 | 難易度：応用

同じ細分類について、次の学習メモA・Bの評価の組合せとして最も妥当なものはどれか。

A：論点「特定行政書士」について、学習メモ「改正前の「行政書士が作成した」書類から「行政書士が作成することができる」書類へと対象が広がった点が出題上重要である。」を妥当な整理として扱う。

B：論点「業務制限」について、学習メモ「2026年改正では報酬の名目を変えて規制を潜脱する余地がないことを条文中明確にし、両罰規定も整備した。」を妥当な整理として扱う。

ア . A「特定行政書士」は妥当 / B「業務制限」も妥当

イ . A「特定行政書士」は妥当 / B「業務制限」は不妥当

ウ . A「特定行政書士」は不妥当 / B「業務制限」は妥当

エ . A「特定行政書士」は不妥当 / B「業務制限」も不妥当

答え・解説

正答：ア

ア：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

イ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：改正前の「行政書士が作成した」書類から「行政書士が作成することができる」書類へと対象が広がった点が出題上重要である。Bの根拠：2026年改正では報酬の名目を変えて規制を潜脱する余地がないことを条文中明確にし、両罰規定も整備した。二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

0070

行政書士法等関連諸法令 > 行政書士法 | 難易度：応用

受験生が復習ノートに次のA・Bを書いた。各記述の妥当性の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：論点「業務制限」について、学習メモ「2026年改正では報酬の名目を変えて規制を潜脱する余地がないことを条文中明確にし、両罰規定も整備した。」を妥当な整理として扱う。

B：論点「使命」について、学習メモ「令和7年法律65号により、2026年1月1日から行政書士の「使命」と「職責」が明確化された。」を誤った整理として退ける。

ア . A「業務制限」は妥当 / B「使命」も妥当

イ . A「業務制限」は妥当 / B「使命」は不妥当

ウ . A「業務制限」は不妥当 / B「使命」は妥当

エ . A「業務制限」は不妥当 / B「使命」も不妥当

答え・解説

正答：イ

ア：Bの評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

ウ：A・Bの双方の評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：Aの評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：2026年改正では報酬の名目を変えて規制を潜脱する余地がないことを条文中明確にし、両罰規定も整備した。Bの根拠：令和7年法律65号により、2026年1月1日から行政書士の「使命」と「職責」が明確化された。二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

0071

行政書士法等関連諸法令 > 戸籍法・住民基本台帳法等 | 難易度：基礎

次の二つの整理A・Bについて、妥当・不妥当の組合せとして正しいものはどれか。

A：論点「戸籍制度」について、学習メモ「戸籍は日本国民の親族的身分関係を登録・公証する制度で、住民票の住所記録とは役割が異なる。」を誤った整理として退ける。

B：論点「戸籍事務」について、学習メモ「戸籍事務は市町村が窓口となるが、法務局・地方法務局による監督等の仕組みもある。」を妥当な整理として扱う。

ア . A「戸籍制度」は妥当 / B「戸籍事務」も妥当

イ . A「戸籍制度」は妥当 / B「戸籍事務」は不妥当

ウ . A「戸籍制度」は不妥当 / B「戸籍事務」は妥当

エ . A「戸籍制度」は不妥当 / B「戸籍事務」も不妥当

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

答え・解説

正答：ウ

ア：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

エ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：戸籍は日本国民の親族的身分関係を登録・公証する制度で、住民票の住所記録とは役割が異なる。 Bの根拠：戸籍事務は市町村が窓口となるが、法務局・地方法務局による監督等の仕組みもある。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

0072

行政書士法等関連諸法令 > 戸籍法・住民基本台帳法等 | 難易度：基礎

同一分野の二つの判断A・Bを検討した。評価の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：論点「戸籍事務」について、学習メモ「戸籍事務は市町村が窓口となるが、法務局・地方法務局による監督等の仕組みもある。」を誤った整理として退ける。

B：論点「戸籍広域交付」について、学習メモ「広域交付は本人・配偶者・直系尊属・直系卑属等が一定の戸籍証明書を本籍地以外でも取得できる制度である。」を誤った整理として退ける。

ア . A「戸籍事務」は妥当 / B「戸籍広域交付」も妥当

イ . A「戸籍事務」は妥当 / B「戸籍広域交付」は不妥当

ウ . A「戸籍事務」は不妥当 / B「戸籍広域交付」は妥当

エ . A「戸籍事務」は不妥当 / B「戸籍広域交付」も不妥当

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

答え・解説

正答：エ

ア：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

総合解説：Aの根拠：戸籍事務は市町村が窓口となるが、法務局・地方法務局による監督等の仕組みもある。 Bの根拠：広域交付は本人・配偶者・直系尊属・直系卑属等が一定の戸籍証明書を本籍地以外でも取得できる制度である。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

0073

行政書士法等関連諸法令 > 戸籍法・住民基本台帳法等 | 難易度：基礎

同じ細分類について、次の学習メモA・Bの評価の組合せとして最も妥当なものはどれか。

A：論点「戸籍広域交付」について、学習メモ「広域交付は本人・配偶者・直系尊属・直系卑属等が一定の戸籍証明書を本籍地以外でも取得できる制度である。」を妥当な整理として扱う。

B：論点「出生届」について、学習メモ「出生届は戸籍に新たな身分事項を記録する重要な届出であり、原則14日以内の届出が必要である。」を妥当な整理として扱う。

ア . A「戸籍広域交付」は妥当 / B「出生届」も妥当

イ . A「戸籍広域交付」は妥当 / B「出生届」は不妥当

ウ . A「戸籍広域交付」は不妥当 / B「出生届」は妥当

エ . A「戸籍広域交付」は不妥当 / B「出生届」も不妥当

答え・解説

正答：ア

ア：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

イ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：広域交付は本人・配偶者・直系尊属・直系卑属等が一定の戸籍証明書を本籍地以外でも取得できる制度である。 Bの根拠：出生届は戸籍に新たな身分事項を記録する重要な届出であり、原則14日以内の届出が必要である。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

0074

行政書士法等関連諸法令 > 戸籍法・住民基本台帳法等 | 難易度：標準

受験生が復習ノートに次のA・Bを書いた。各記述の妥当性の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：論点「出生届」について、学習メモ「出生届は戸籍に新たな身分事項を記録する重要な届出であり、原則14日以内の届出が必要である。」を妥当な整理として扱う。

B：論点「戸籍証明請求」について、学習メモ「戸籍は機微な身分情報を含むため、証明書の交付請求には請求権者・本人確認等の規律がある。」を誤った整理として退ける。

ア . A「出生届」は妥当 / B「戸籍証明請求」も妥当

イ . A「出生届」は妥当 / B「戸籍証明請求」は不妥当

ウ . A「出生届」は不妥当 / B「戸籍証明請求」は妥当

エ . A「出生届」は不妥当 / B「戸籍証明請求」も不妥当

答え・解説

正答：イ

ア：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

ウ：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：出生届は戸籍に新たな身分事項を記録する重要な届出であり、原則14日以内の届出が必要である。 Bの根拠：戸籍は機微な身分情報を含むため、証明書の交付請求には請求権者・本人確認等の規律がある。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

0075

行政書士法等関連諸法令 > 戸籍法・住民基本台帳法等 | 難易度：標準

次の二つの整理A・Bについて、妥当・不妥当の組合せとして正しいものはどれか。

A：論点「戸籍証明請求」について、学習メモ「戸籍は機微な身分情報を含むため、証明書の交付請求には請求権者・本人確認等の規律がある。」を誤った整理として退ける。

B：論点「住民基本台帳」について、学習メモ「住民基本台帳は住所を中心とした住民情報を市町村で整備し、各種行政事務の基礎とする。」を妥当な整理として扱う。

ア．A「戸籍証明請求」は妥当 / B「住民基本台帳」も妥当

イ．A「戸籍証明請求」は妥当 / B「住民基本台帳」は不妥当

ウ．A「戸籍証明請求」は不妥当 / B「住民基本台帳」は妥当

エ．A「戸籍証明請求」は不妥当 / B「住民基本台帳」も不妥当

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

答え・解説

正答：ウ

ア：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

エ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：戸籍は機微な身分情報を含むため、証明書の交付請求には請求権者・本人確認等の規律がある。Bの根拠：住民基本台帳は住所を中心とした住民情報を市町村で整備し、各種行政事務の基礎とする。二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

0076

行政書士法等関連諸法令 > 戸籍法・住民基本台帳法等 | 難易度：標準

同一分野の二つの判断A・Bを検討した。評価の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：論点「住民基本台帳」について、学習メモ「住民基本台帳は住所を中心とした住民情報を市町村で整備し、各種行政事務の基礎とする。」を誤った整理として退ける。

B：論点「住民票記載事項」について、学習メモ「住民票は居住関係の公証を目的とし、戸籍とは記録する情報と目的が異なる。」を誤った整理として退ける。

ア．A「住民基本台帳」は妥当 / B「住民票記載事項」も妥当

イ．A「住民基本台帳」は妥当 / B「住民票記載事項」は不妥当

ウ．A「住民基本台帳」は不妥当 / B「住民票記載事項」は妥当

エ．A「住民基本台帳」は不妥当 / B「住民票記載事項」も不妥当

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

答え・解説

正答：エ

ア：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

総合解説：Aの根拠：住民基本台帳は住所を中心とした住民情報を市町村で整備し、各種行政事務の基礎とする。Bの根拠：住民票は居住関係の公証を目的とし、戸籍とは記録する情報と目的が異なる。二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

0077行政書士法等関連諸法令 > 戸籍法・住民基本台帳法等 | 難易度：標準

同じ細分類について、次の学習メモA・Bの評価の組合せとして最も妥当なものはどれか。

A：論点「住民票記載事項」について、学習メモ「住民票は居住関係の公証を目的とし、戸籍とは記録する情報と目的が異なる。」を妥当な整理として扱う。

B：論点「転入届」について、学習メモ「住所異動の届出は住民基本台帳の記録を正確に保つため重要で、転入・転居・転出で手続きが異なる。」を妥当な整理として扱う。

ア . A「住民票記載事項」は妥当 / B「転入届」も妥当

イ . A「住民票記載事項」は妥当 / B「転入届」は不妥当

ウ . A「住民票記載事項」は不妥当 / B「転入届」は妥当

エ . A「住民票記載事項」は不妥当 / B「転入届」も不妥当

答え・解説正答：ア

ア：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

イ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：住民票は居住関係の公証を目的とし、戸籍とは記録する情報と目的が異なる。Bの根拠：住所異動の届出は住民基本台帳の記録を正確に保つため重要で、転入・転居・転出で手続きが異なる。二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

0078行政書士法等関連諸法令 > 戸籍法・住民基本台帳法等 | 難易度：標準

受験生が復習ノートに次のA・Bを書いた。各記述の妥当性の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：論点「転入届」について、学習メモ「住所異動の届出は住民基本台帳の記録を正確に保つため重要で、転入・転居・転出で手続きが異なる。」を妥当な整理として扱う。

B：論点「住基ネット」について、学習メモ「住基ネットは本人確認情報の全国的な連携基盤だが、個人情報保護のため利用・提供範囲が法定されている。」を誤った整理として退ける。

ア . A「転入届」は妥当 / B「住基ネット」も妥当

イ . A「転入届」は妥当 / B「住基ネット」は不妥当

ウ . A「転入届」は不妥当 / B「住基ネット」は妥当

エ . A「転入届」は不妥当 / B「住基ネット」も不妥当

答え・解説正答：イ

ア：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

ウ：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：住所異動の届出は住民基本台帳の記録を正確に保つため重要で、転入・転居・転出で手続きが異なる。Bの根拠：住基ネットは本人確認情報の全国的な連携基盤だが、個人情報保護のため利用・提供範囲が法定されている。二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

0079

行政書士法等関連諸法令 > 戸籍法・住民基本台帳法等 | 難易度：応用

次の二つの整理A・Bについて、妥当・不妥当の組合せとして正しいものはどれか。
A：論点「住基ネット」について、学習メモ「住基ネットは本人確認情報の全国的な連携基盤だが、個人情報保護のため利用・提供範囲が法定されている。」を誤った整理として退ける。
B：論点「外国人住民」について、学習メモ「戸籍は原則として日本国民の身分登録、住民基本台帳は日本人・一定の外国人住民の居住関係を記録するため、両制度を区別する。」を妥当な整理として扱う。

- ア．A「住基ネット」は妥当 / B「外国人住民」も妥当
イ．A「住基ネット」は妥当 / B「外国人住民」は不妥当
ウ．A「住基ネット」は不妥当 / B「外国人住民」は妥当
エ．A「住基ネット」は不妥当 / B「外国人住民」も不妥当

答え・解説

正答：ウ

ア：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。
イ：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。
ウ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。
エ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。
総合解説：Aの根拠：住基ネットは本人確認情報の全国的な連携基盤だが、個人情報保護のため利用・提供範囲が法定されている。 Bの根拠：戸籍は原則として日本国民の身分登録、住民基本台帳は日本人・一定の外国人住民の居住関係を記録するため、両制度を区別する。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

0080

行政書士法等関連諸法令 > 戸籍法・住民基本台帳法等 | 難易度：応用

同一分野の二つの判断A・Bを検討した。評価の組合せとして最も適切なものはどれか。
A：論点「外国人住民」について、学習メモ「戸籍は原則として日本国民の身分登録、住民基本台帳は日本人・一定の外国人住民の居住関係を記録するため、両制度を区別する。」を誤った整理として退ける。

B：論点「戸籍制度」について、学習メモ「戸籍は日本国民の親族的身分関係を登録・公証する制度で、住民票の住所記録とは役割が異なる。」を誤った整理として退ける。

- ア．A「外国人住民」は妥当 / B「戸籍制度」も妥当
イ．A「外国人住民」は妥当 / B「戸籍制度」は不妥当
ウ．A「外国人住民」は不妥当 / B「戸籍制度」は妥当
エ．A「外国人住民」は不妥当 / B「戸籍制度」も不妥当

答え・解説

正答：エ

ア：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。
イ：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。
ウ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。
エ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。
総合解説：Aの根拠：戸籍は原則として日本国民の身分登録、住民基本台帳は日本人・一定の外国人住民の居住関係を記録するため、両制度を区別する。 Bの根拠：戸籍は日本国民の親族的身分関係を登録・公証する制度で、住民票の住所記録とは役割が異なる。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

0081

情報通信・個人情報保護 > 情報通信・AI・インターネット | 難易度：基礎

同じ細分類について、次の学習メモA・Bの評価の組合せとして最も妥当なものはどれか。

A：論点「パケット通信」について、学習メモ「パケット通信ではデータを分割してネットワーク資源を効率的に共有できる。」を妥当な整理として扱う。

B：論点「DNS」について、学習メモ「利用者に分かりやすいドメイン名を、通信で利用するIPアドレス等に対応付けるのがDNSである。」を妥当な整理として扱う。

ア . A「パケット通信」は妥当 / B「DNS」も妥当

イ . A「パケット通信」は妥当 / B「DNS」は不妥当

ウ . A「パケット通信」は不妥当 / B「DNS」は妥当

エ . A「パケット通信」は不妥当 / B「DNS」も不妥当

答え・解説

正答：ア

ア：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

イ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：パケット通信ではデータを分割してネットワーク資源を効率的に共有できる。 Bの根拠：利用者に分かりやすいドメイン名を、通信で利用するIPアドレス等に対応付けるのがDNSである。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0082

情報通信・個人情報保護 > 情報通信・AI・インターネット | 難易度：基礎

受験生が復習ノートに次のA・Bを書いた。各記述の妥当性の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：論点「DNS」について、学習メモ「利用者に分かりやすいドメイン名を、通信で利用するIPアドレス等に対応付けるのがDNSである。」を妥当な整理として扱う。

B：論点「HTTP・HTTPS」について、学習メモ「HTTPSは盗聴・改ざん・なりすましのリスクを低減するが、利用者側の注意や端末管理も必要である。」を誤った整理として退ける。

ア . A「DNS」は妥当 / B「HTTP・HTTPS」も妥当

イ . A「DNS」は妥当 / B「HTTP・HTTPS」は不妥当

ウ . A「DNS」は不妥当 / B「HTTP・HTTPS」は妥当

エ . A「DNS」は不妥当 / B「HTTP・HTTPS」も不妥当

答え・解説

正答：イ

ア：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

ウ：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：利用者に分かりやすいドメイン名を、通信で利用するIPアドレス等に対応付けるのがDNSである。 Bの根拠：HTTPSは盗聴・改ざん・なりすましのリスクを低減するが、利用者側の注意や端末管理も必要である。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0083

情報通信・個人情報保護 > 情報通信・AI・インターネット | 難易度：基礎

次の二つの整理A・Bについて、妥当・不妥当の組合せとして正しいものはどれか。

A：論点「HTTP・HTTPS」について、学習メモ「HTTPSは盗聴・改ざん・なりすましのリスクを低減するが、利用者側の注意や端末管理も必要である。」を誤った整理として退ける。

B：論点「クラウド」について、学習メモ「クラウドは迅速な資源調達や拡張性に利点がある一方、委託先管理・可用性・情報保護などの検討が必要である。」を妥当な整理として扱う。

ア . A「HTTP・HTTPS」は妥当 / B「クラウド」も妥当

イ . A「HTTP・HTTPS」は妥当 / B「クラウド」は不妥当

ウ . A「HTTP・HTTPS」は不妥当 / B「クラウド」は妥当

エ . A「HTTP・HTTPS」は不妥当 / B「クラウド」も不妥当

答え・解説

正答：ウ

ア：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

エ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：HTTPSは盗聴・改ざん・なりすましのリスクを低減するが、利用者側の注意や端末管理も必要である。 Bの根拠：クラウドは迅速な資源調達や拡張性に利点がある一方、委託先管理・可用性・情報保護などの検討が必要である。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0084

情報通信・個人情報保護 > 情報通信・AI・インターネット | 難易度：標準

同一分野の二つの判断A・Bを検討した。評価の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：論点「クラウド」について、学習メモ「クラウドは迅速な資源調達や拡張性に利点がある一方、委託先管理・可用性・情報保護などの検討が必要である。」を誤った整理として退ける。

B：論点「生成AI」について、学習メモ「生成AIは有用だが、正確性、著作権、個人情報、機密情報、安全性などを踏まえた人による確認が重要である。」を誤った整理として退ける。

ア . A「クラウド」は妥当 / B「生成AI」も妥当

イ . A「クラウド」は妥当 / B「生成AI」は不妥当

ウ . A「クラウド」は不妥当 / B「生成AI」は妥当

エ . A「クラウド」は不妥当 / B「生成AI」も不妥当

答え・解説

正答：エ

ア：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

総合解説：Aの根拠：クラウドは迅速な資源調達や拡張性に利点がある一方、委託先管理・可用性・情報保護などの検討が必要である。 Bの根拠：生成AIは有用だが、正確性、著作権、個人情報、機密情報、安全性などを踏まえた人による確認が重要である。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0085

情報通信・個人情報保護 > 情報通信・AI・インターネット | 難易度：標準

同じ細分類について、次の学習メモA・Bの評価の組合せとして最も妥当なものはどれか。

A：論点「生成AI」について、学習メモ「生成AIは有用だが、正確性、著作権、個人情報、機密情報、安全性などを踏まえた人による確認が重要である。」を妥当な整理として扱う。

B：論点「AI法」について、学習メモ「日本のAI法は、競争力・研究開発・活用促進と、犯罪利用・個人情報漏えい・著作権侵害等への適正な対応を併せて掲げる。」を妥当な整理として扱う。

ア . A「生成AI」は妥当 / B「AI法」も妥当

イ . A「生成AI」は妥当 / B「AI法」は不妥当

ウ . A「生成AI」は不妥当 / B「AI法」は妥当

エ . A「生成AI」は不妥当 / B「AI法」も不妥当

答え・解説

正答：ア

ア：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

イ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：Aの評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：A・Bの双方の評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：生成AIは有用だが、正確性、著作権、個人情報、機密情報、安全性などを踏まえた人による確認が重要である。 Bの根拠：日本のAI法は、競争力・研究開発・活用促進と、犯罪利用・個人情報漏えい・著作権侵害等への適正な対応を併せて掲げる。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0086

情報通信・個人情報保護 > 情報通信・AI・インターネット | 難易度：標準

受験生が復習ノートに次のA・Bを書いた。各記述の妥当性の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：論点「AI法」について、学習メモ「日本のAI法は、競争力・研究開発・活用促進と、犯罪利用・個人情報漏えい・著作権侵害等への適正な対応を併せて掲げる。」を妥当な整理として扱う。

B：論点「AI戦略本部」について、学習メモ「AI法は基本計画と戦略本部を通じ、研究開発・人材・国際協力・適正性確保などを横断的に推進する。」を誤った整理として退ける。

ア . A「AI法」は妥当 / B「AI戦略本部」も妥当

イ . A「AI法」は妥当 / B「AI戦略本部」は不妥当

ウ . A「AI法」は不妥当 / B「AI戦略本部」は妥当

エ . A「AI法」は不妥当 / B「AI戦略本部」も不妥当

答え・解説

正答：イ

ア：Bの評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

ウ：A・Bの双方の評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：Aの評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：日本のAI法は、競争力・研究開発・活用促進と、犯罪利用・個人情報漏えい・著作権侵害等への適正な対応を併せて掲げる。 Bの根拠：AI法は基本計画と戦略本部を通じ、研究開発・人材・国際協力・適正性確保などを横断的に推進する。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

0087

情報通信・個人情報保護 > 情報通信・AI・インターネット | 難易度：標準

次の二つの整理A・Bについて、妥当・不妥当の組合せとして正しいものはどれか。

A：論点「AI戦略本部」について、学習メモ「AI法は基本計画と戦略本部を通じ、研究開発・人材・国際協力・適正性確保などを横断的に推進する。」を誤った整理として退ける。

B：論点「SNS情報流通」について、学習メモ「情報流通の利便性と表現の自由を活かしながら、違法・有害情報や偽・誤情報への対応を考える必要がある。」を妥当な整理として扱う。

ア . A「AI戦略本部」は妥当 / B「SNS情報流通」も妥当

イ . A「AI戦略本部」は妥当 / B「SNS情報流通」は不妥当

ウ . A「AI戦略本部」は不妥当 / B「SNS情報流通」は妥当

エ . A「AI戦略本部」は不妥当 / B「SNS情報流通」も不妥当

答え・解説

正答：ウ

ア：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

エ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：AI法は基本計画と戦略本部を通じ、研究開発・人材・国際協力・適正性確保などを横断的に推進する。 Bの根拠：情報流通の利便性と表現の自由を活かしながら、違法・有害情報や偽・誤情報への対応を考える必要がある。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

0088

情報通信・個人情報保護 > 情報通信・AI・インターネット | 難易度：標準

同一分野の二つの判断A・Bを検討した。評価の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：論点「SNS情報流通」について、学習メモ「情報流通の利便性と表現の自由を活かしながら、違法・有害情報や偽・誤情報への対応を考える必要がある。」を誤った整理として退ける。

B：論点「オンライン識別子」について、学習メモ「オンライン識別子は、単独での識別可能性だけでなく、他情報との容易照合性や第三者提供時の取扱いも検討する必要がある。」を誤った整理として退ける。

ア . A「SNS情報流通」は妥当 / B「オンライン識別子」も妥当

イ . A「SNS情報流通」は妥当 / B「オンライン識別子」は不妥当

ウ . A「SNS情報流通」は不妥当 / B「オンライン識別子」は妥当

エ . A「SNS情報流通」は不妥当 / B「オンライン識別子」も不妥当

答え・解説

正答：エ

ア：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

総合解説：Aの根拠：情報流通の利便性と表現の自由を活かしながら、違法・有害情報や偽・誤情報への対応を考える必要がある。 Bの根拠：オンライン識別子は、単独での識別可能性だけでなく、他情報との容易照合性や第三者提供時の取扱いも検討する必要がある。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0089

情報通信・個人情報保護 > 情報通信・AI・インターネット | 難易度：応用

同じ細分類について、次の学習メモA・Bの評価の組合せとして最も妥当なものはどれか。

A：論点「オンライン識別子」について、学習メモ「オンライン識別子は、単独での識別可能性だけでなく、他情報との容易照合性や第三者提供時の取扱いも検討する必要がある。」を妥当な整理として扱う。

B：論点「オープンデータ」について、学習メモ「オープンデータは公共データの利活用を促す一方、個人情報・秘密情報・著作権などとの調整が必要である。」を妥当な整理として扱う。

ア . A「オンライン識別子」は妥当 / B「オープンデータ」も妥当
イ . A「オンライン識別子」は妥当 / B「オープンデータ」は不妥当
ウ . A「オンライン識別子」は不妥当 / B「オープンデータ」は妥当
エ . A「オンライン識別子」は不妥当 / B「オープンデータ」も不妥当

答え・解説

正答：ア

ア：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。
イ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。
ウ：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。
エ：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。
総合解説：Aの根拠：オンライン識別子は、単独での識別可能性だけでなく、他情報との容易照合性や第三者提供時の取扱いも検討する必要がある。Bの根拠：オープンデータは公共データの利活用を促す一方、個人情報・秘密情報・著作権などとの調整が必要である。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

0090

情報通信・個人情報保護 > 情報通信・AI・インターネット | 難易度：応用

受験生が復習 ノートに次のA・Bを書いた。各記述の妥当性の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：論点「オープンデータ」について、学習メモ「オープンデータは公共データの利活用を促す一方、個人情報・秘密情報・著作権などとの調整が必要である。」を妥当な整理として扱う。

B：論点「パケット通信」について、学習メモ「パケット通信ではデータを分割してネットワーク資源を効率的に共有できる。」を誤った整理として退ける。

ア . A「オープンデータ」は妥当 / B「パケット通信」も妥当
イ . A「オープンデータ」は妥当 / B「パケット通信」は不妥当
ウ . A「オープンデータ」は不妥当 / B「パケット通信」は妥当
エ . A「オープンデータ」は不妥当 / B「パケット通信」も不妥当

答え・解説

正答：イ

ア：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。
イ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。
ウ：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。
エ：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。
総合解説：Aの根拠：オープンデータは公共データの利活用を促す一方、個人情報・秘密情報・著作権などとの調整が必要である。Bの根拠：パケット通信ではデータを分割してネットワーク資源を効率的に共有できる。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0091

情報通信・個人情報保護 > デジタル行政・情報法 | 難易度：基礎

次の二つの整理A・Bについて、妥当・不妥当の組合せとして正しいものはどれか。

A：論点「デジタル社会形成基本法」について、学習メモ「同法はデジタル社会形成の基本理念、国・地方公共団体・事業者の責務、重点計画等の基礎を定める。」を誤った整理として退ける。

B：論点「利用者中心」について、学習メモ「デジタル行政では単なるオンライン化ではなく、手続の見直しやデータ連携を通じ利用者負担を減らすことが重要である。」を妥当な整理として扱う。

ア . A「デジタル社会形成基本法」は妥当 / B「利用者中心」も妥当

イ . A「デジタル社会形成基本法」は妥当 / B「利用者中心」は不妥当

ウ . A「デジタル社会形成基本法」は不妥当 / B「利用者中心」は妥当

エ . A「デジタル社会形成基本法」は不妥当 / B「利用者中心」も不妥当

答え・解説

正答：ウ

ア：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

エ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：同法はデジタル社会形成の基本理念、国・地方公共団体・事業者の責務、重点計画等の基礎を定める。 Bの根拠：デジタル行政では単なるオンライン化ではなく、手続の見直しやデータ連携を通じ利用者負担を減らすことが重要である。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

0092

情報通信・個人情報保護 > デジタル行政・情報法 | 難易度：基礎

同一分野の二つの判断A・Bを検討した。評価の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：論点「利用者中心」について、学習メモ「デジタル行政では単なるオンライン化ではなく、手続の見直しやデータ連携を通じ利用者負担を減らすことが重要である。」を誤った整理として退ける。

B：論点「オンライン行政手続」について、学習メモ「同法は申請・処分通知等のオンライン化や情報システム利用の基本枠組みを整備する。」を誤った整理として退ける。

ア . A「利用者中心」は妥当 / B「オンライン行政手続」も妥当

イ . A「利用者中心」は妥当 / B「オンライン行政手続」は不妥当

ウ . A「利用者中心」は不妥当 / B「オンライン行政手続」は妥当

エ . A「利用者中心」は不妥当 / B「オンライン行政手続」も不妥当

答え・解説

正答：エ

ア：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

総合解説：Aの根拠：デジタル行政では単なるオンライン化ではなく、手続の見直しやデータ連携を通じ利用者負担を減らすことが重要である。 Bの根拠：同法は申請・処分通知等のオンライン化や情報システム利用の基本枠組みを整備する。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

0093

情報通信・個人情報保護 > デジタル行政・情報法 | 難易度：基礎

同じ細分類について、次の学習メモA・Bの評価の組合せとして最も妥当なものはどれか。

A：論点「オンライン行政手続」について、学習メモ「同法は申請・処分通知等のオンライン化や情報システム利用の基本枠組みを整備する。」を妥当な整理として扱う。

B：論点「デジタル原則」について、学習メモ「デジタル原則は利便性向上を目指す、本人確認・情報保護・法定利用目的等を満たす必要がある。」を妥当な整理として扱う。

ア．A「オンライン行政手続」は妥当 / B「デジタル原則」も妥当

イ．A「オンライン行政手続」は妥当 / B「デジタル原則」は不妥当

ウ．A「オンライン行政手続」は不妥当 / B「デジタル原則」は妥当

エ．A「オンライン行政手続」は不妥当 / B「デジタル原則」も不妥当

答え・解説

正答：ア

ア：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

イ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：同法は申請・処分通知等のオンライン化や情報システム利用の基本枠組みを整備する。Bの根拠：デジタル原則は利便性向上を目指す、本人確認・情報保護・法定利用目的等を満たす必要がある。二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

0094

情報通信・個人情報保護 > デジタル行政・情報法 | 難易度：標準

受験生が復習ノートに次のA・Bを書いた。各記述の妥当性の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：論点「デジタル原則」について、学習メモ「デジタル原則は利便性向上を目指す、本人確認・情報保護・法定利用目的等を満たす必要がある。」を妥当な整理として扱う。

B：論点「マイナンバー」について、学習メモ「個人番号は社会保障・税・災害対策等の法定分野を中心に利用され、特定個人情報には厳格な取扱規律がある。」を誤った整理として退ける。

ア．A「デジタル原則」は妥当 / B「マイナンバー」も妥当

イ．A「デジタル原則」は妥当 / B「マイナンバー」は不妥当

ウ．A「デジタル原則」は不妥当 / B「マイナンバー」は妥当

エ．A「デジタル原則」は不妥当 / B「マイナンバー」も不妥当

答え・解説

正答：イ

ア：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

ウ：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：デジタル原則は利便性向上を目指す、本人確認・情報保護・法定利用目的等を満たす必要がある。Bの根拠：個人番号は社会保障・税・災害対策等の法定分野を中心に利用され、特定個人情報には厳格な取扱規律がある。二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0095

情報通信・個人情報保護 > デジタル行政・情報法 | 難易度：標準

次の二つの整理A・Bについて、妥当・不妥当の組合せとして正しいものはどれか。
A：論点「マイナンバー」について、学習メモ「個人番号は社会保障・税・災害対策等の法定分野を中心に利用され、特定個人情報には厳格な取扱規律がある。」を誤った整理として退ける。
B：論点「マイナンバーカード」について、学習メモ「マイナンバーカードは個人番号そのものとは別の媒体であり、顔写真付き本人確認や電子証明書によるオンライン本人確認に利用される。」を妥当な整理として扱う。

- ア．A「マイナンバー」は妥当 / B「マイナンバーカード」も妥当
イ．A「マイナンバー」は妥当 / B「マイナンバーカード」は不妥当
ウ．A「マイナンバー」は不妥当 / B「マイナンバーカード」は妥当
エ．A「マイナンバー」は不妥当 / B「マイナンバーカード」も不妥当

答え・解説

正答：ウ

ア：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。
イ：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。
ウ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。
エ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。
総合解説：Aの根拠：個人番号は社会保障・税・災害対策等の法定分野を中心に利用され、特定個人情報には厳格な取扱規律がある。 Bの根拠：マイナンバーカードは個人番号そのものとは別の媒体であり、顔写真付き本人確認や電子証明書によるオンライン本人確認に利用される。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

0096

情報通信・個人情報保護 > デジタル行政・情報法 | 難易度：標準

同一分野の二つの判断A・Bを検討した。評価の組合せとして最も適切なものはどれか。
A：論点「マイナンバーカード」について、学習メモ「マイナンバーカードは個人番号そのものとは別の媒体であり、顔写真付き本人確認や電子証明書によるオンライン本人確認に利用される。」を誤った整理として退ける。
B：論点「公的個人認証」について、学習メモ「公的個人認証は電子証明書を用いてなりすましや改ざんのリスクを低減し、安全なオンライン行政手続等を支える。」を誤った整理として退ける。

- ア．A「マイナンバーカード」は妥当 / B「公的個人認証」も妥当
イ．A「マイナンバーカード」は妥当 / B「公的個人認証」は不妥当
ウ．A「マイナンバーカード」は不妥当 / B「公的個人認証」は妥当
エ．A「マイナンバーカード」は不妥当 / B「公的個人認証」も不妥当

答え・解説

正答：エ

ア：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。
イ：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。
ウ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。
エ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。
総合解説：Aの根拠：マイナンバーカードは個人番号そのものとは別の媒体であり、顔写真付き本人確認や電子証明書によるオンライン本人確認に利用される。 Bの根拠：公的個人認証は電子証明書を用いてなりすましや改ざんのリスクを低減し、安全なオンライン行政手続等を支える。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

0097

情報通信・個人情報保護 > デジタル行政・情報法 | 難易度：標準

同じ細分類について、次の学習メモA・Bの評価の組合せとして最も妥当なものはどれか。

A：論点「公的個人認証」について、学習メモ「公的個人認証は電子証明書を用いてなりすましや改ざんのリスクを低減し、安全なオンライン行政手続等を支える。」を妥当な整理として扱う。

B：論点「データ連携」について、学習メモ「行政DXではデータ活用とプライバシー・セキュリティの両立が重要な設計原則となる。」を妥当な整理として扱う。

ア．A「公的個人認証」は妥当 / B「データ連携」も妥当

イ．A「公的個人認証」は妥当 / B「データ連携」は不妥当

ウ．A「公的個人認証」は不妥当 / B「データ連携」は妥当

エ．A「公的個人認証」は不妥当 / B「データ連携」も不妥当

答え・解説

正答：ア

ア：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

イ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：公的個人認証は電子証明書を用いてなりすましや改ざんのリスクを低減し、安全なオンライン行政手続等を支える。 Bの根拠：行政DXではデータ活用とプライバシー・セキュリティの両立が重要な設計原則となる。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0098

情報通信・個人情報保護 > デジタル行政・情報法 | 難易度：標準

受験生が復習ノートに次のA・Bを書いた。各記述の妥当性の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：論点「データ連携」について、学習メモ「行政DXではデータ活用とプライバシー・セキュリティの両立が重要な設計原則となる。」を妥当な整理として扱う。

B：論点「情報公開・個人情報保護」について、学習メモ「行政情報の公開と個人情報の保護は、ともに民主的行政に重要だが、個別の開示範囲は各法の要件に従って判断する。」を誤った整理として退ける。

ア．A「データ連携」は妥当 / B「情報公開・個人情報保護」も妥当

イ．A「データ連携」は妥当 / B「情報公開・個人情報保護」は不妥当

ウ．A「データ連携」は不妥当 / B「情報公開・個人情報保護」は妥当

エ．A「データ連携」は不妥当 / B「情報公開・個人情報保護」も不妥当

答え・解説

正答：イ

ア：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

ウ：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：行政DXではデータ活用とプライバシー・セキュリティの両立が重要な設計原則となる。 Bの根拠：行政情報の公開と個人情報の保護は、ともに民主的行政に重要だが、個別の開示範囲は各法の要件に従って判断する。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

0099

情報通信・個人情報保護 > デジタル行政・情報法 | 難易度：応用

次の二つの整理A・Bについて、妥当・不妥当の組合せとして正しいものはどれか。

A：論点「情報公開・個人情報保護」について、学習メモ「行政情報の公開と個人情報の保護は、ともに民主的行政に重要だが、個別の開示範囲は各法の要件に従って判断する。」を誤った整理として退ける。

B：論点「デジタル包摂」について、学習メモ「デジタル行政は効率化だけでなく、利用できない人を生まない設計や支援を含めて評価する必要がある。」を妥当な整理として扱う。

ア．A「情報公開・個人情報保護」は妥当 / B「デジタル包摂」も妥当
イ．A「情報公開・個人情報保護」は妥当 / B「デジタル包摂」は不妥当
ウ．A「情報公開・個人情報保護」は不妥当 / B「デジタル包摂」は妥当
エ．A「情報公開・個人情報保護」は不妥当 / B「デジタル包摂」も不妥当

答え・解説

正答：ウ

ア：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。
イ：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。
ウ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。
エ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：行政情報の公開と個人情報の保護は、ともに民主的行政に重要だが、個別の開示範囲は各法の要件に従って判断する。Bの根拠：デジタル行政は効率化だけでなく、利用できない人を生まない設計や支援を含めて評価する必要がある。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

0100

情報通信・個人情報保護 > デジタル行政・情報法 | 難易度：応用

同一分野の二つの判断A・Bを検討した。評価の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：論点「デジタル包摂」について、学習メモ「デジタル行政は効率化だけでなく、利用できない人を生まない設計や支援を含めて評価する必要がある。」を誤った整理として退ける。

B：論点「デジタル社会形成基本法」について、学習メモ「同法はデジタル社会形成の基本理念、国・地方公共団体・事業者の責務、重点計画等の基礎を定める。」を誤った整理として退ける。

ア．A「デジタル包摂」は妥当 / B「デジタル社会形成基本法」も妥当
イ．A「デジタル包摂」は妥当 / B「デジタル社会形成基本法」は不妥当
ウ．A「デジタル包摂」は不妥当 / B「デジタル社会形成基本法」は妥当
エ．A「デジタル包摂」は不妥当 / B「デジタル社会形成基本法」も不妥当

答え・解説

正答：エ

ア：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。
イ：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。
ウ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。
エ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

総合解説：Aの根拠：デジタル行政は効率化だけでなく、利用できない人を生まない設計や支援を含めて評価する必要がある。Bの根拠：同法はデジタル社会形成の基本理念、国・地方公共団体・事業者の責務、重点計画等の基礎を定める。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0101

情報通信・個人情報保護 > 個人情報保護法 | 難易度：基礎

同じ細分類について、次の学習メモA・Bの評価の組合せとして最も妥当なものはどれか。

A：論点「個人情報の定義」について、学習メモ「個人情報は氏名がなくても、他の情報と容易に照合して特定個人を識別できる場合や個人識別符号を含む場合に該当し得る。」を妥当な整理として扱う。

B：論点「個人識別符号」について、学習メモ「生体情報をデジタル化した符号や公的に個人ごとに付される番号等の一部は、法令上個人識別符号とされる。」を妥当な整理として扱う。

ア . A「個人情報の定義」は妥当 / B「個人識別符号」も妥当

イ . A「個人情報の定義」は妥当 / B「個人識別符号」は不妥当

ウ . A「個人情報の定義」は不妥当 / B「個人識別符号」は妥当

エ . A「個人情報の定義」は不妥当 / B「個人識別符号」も不妥当

答え・解説

正答：ア

ア：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

イ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：個人情報は氏名がなくても、他の情報と容易に照合して特定個人を識別できる場合や個人識別符号を含む場合に該当し得る。 Bの根拠：生体情報をデジタル化した符号や公的に個人ごとに付される番号等の一部は、法令上個人識別符号とされる。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

0102

情報通信・個人情報保護 > 個人情報保護法 | 難易度：基礎

受験生が復習ノートに次のA・Bを書いた。各記述の妥当性の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：論点「個人識別符号」について、学習メモ「生体情報をデジタル化した符号や公的に個人ごとに付される番号等の一部は、法令上個人識別符号とされる。」を妥当な整理として扱う。

B：論点「要配慮個人情報」について、学習メモ「要配慮個人情報は取得時の本人同意等について通常の個人情報より厳格な規律が設けられている。」を誤った整理として退ける。

ア . A「個人識別符号」は妥当 / B「要配慮個人情報」も妥当

イ . A「個人識別符号」は妥当 / B「要配慮個人情報」は不妥当

ウ . A「個人識別符号」は不妥当 / B「要配慮個人情報」は妥当

エ . A「個人識別符号」は不妥当 / B「要配慮個人情報」も不妥当

答え・解説

正答：イ

ア：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

ウ：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：生体情報をデジタル化した符号や公的に個人ごとに付される番号等の一部は、法令上個人識別符号とされる。 Bの根拠：要配慮個人情報は取得時の本人同意等について通常の個人情報より厳格な規律が設けられている。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

0103

情報通信・個人情報保護 > 個人情報保護法 | 難易度：基礎

次の二つの整理A・Bについて、妥当・不妥当の組合せとして正しいものはどれか。

A：論点「要配慮個人情報」について、学習メモ「要配慮個人情報は取得時の本人同意等について通常の個人情報より厳格な規律が設けられている。」を誤った整理として退ける。

B：論点「利用目的」について、学習メモ「個人情報保護法は目的明確化を基本とし、本人の予測可能性と事業者の適正利用を確保する。」を妥当な整理として扱う。

ア . A「要配慮個人情報」は妥当 / B「利用目的」も妥当

イ . A「要配慮個人情報」は妥当 / B「利用目的」は不妥当

ウ . A「要配慮個人情報」は不妥当 / B「利用目的」は妥当

エ . A「要配慮個人情報」は不妥当 / B「利用目的」も不妥当

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

答え・解説

正答：ウ

ア：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

エ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：要配慮個人情報は取得時の本人同意等について通常の個人情報より厳格な規律が設けられている。 Bの根拠：個人情報保護法は目的明確化を基本とし、本人の予測可能性と事業者の適正利用を確保する。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

0104

情報通信・個人情報保護 > 個人情報保護法 | 難易度：標準

同一分野の二つの判断A・Bを検討した。評価の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：論点「利用目的」について、学習メモ「個人情報保護法は目的明確化を基本とし、本人の予測可能性と事業者の適正利用を確保する。」を誤った整理として退ける。

B：論点「適正取得」について、学習メモ「公開情報か否かだけで適法性は決まらず、取得方法・利用目的・その後の利用や提供も含めて判断する。」を誤った整理として退ける。

ア . A「利用目的」は妥当 / B「適正取得」も妥当

イ . A「利用目的」は妥当 / B「適正取得」は不妥当

ウ . A「利用目的」は不妥当 / B「適正取得」は妥当

エ . A「利用目的」は不妥当 / B「適正取得」も不妥当

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

答え・解説

正答：エ

ア：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

総合解説：Aの根拠：個人情報保護法は目的明確化を基本とし、本人の予測可能性と事業者の適正利用を確保する。 Bの根拠：公開情報か否かだけで適法性は決まらず、取得方法・利用目的・その後の利用や提供も含めて判断する。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

0105

情報通信・個人情報保護 > 個人情報保護法 | 難易度：標準

同じ細分類について、次の学習メモA・Bの評価の組合せとして最も妥当なものはどれか。

A：論点「適正取得」について、学習メモ「公開情報が否かだけで適法性は決まらず、取得方法・利用目的・その後の利用や提供も含めて判断する。」を妥当な整理として扱う。

B：論点「要配慮情報の取得」について、学習メモ「要配慮個人情報は差別・偏見等の危険が高いため、取得段階から特別な保護が置かれている。」を妥当な整理として扱う。

ア . A「適正取得」は妥当 / B「要配慮情報の取得」も妥当

イ . A「適正取得」は妥当 / B「要配慮情報の取得」は不妥当

ウ . A「適正取得」は不妥当 / B「要配慮情報の取得」は妥当

エ . A「適正取得」は不妥当 / B「要配慮情報の取得」も不妥当

0106

情報通信・個人情報保護 > 個人情報保護法 | 難易度：標準

受験生が復習ノートに次のA・Bを書いた。各記述の妥当性の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：論点「要配慮情報の取得」について、学習メモ「要配慮個人情報は差別・偏見等の危険が高いため、取得段階から特別な保護が置かれている。」を妥当な整理として扱う。

B：論点「安全管理措置」について、学習メモ「安全管理措置は一つの技術だけではなく、組織・人・物理環境・技術を組み合わせて実施する。」を誤った整理として退ける。

ア . A「要配慮情報の取得」は妥当 / B「安全管理措置」も妥当

イ . A「要配慮情報の取得」は妥当 / B「安全管理措置」は不妥当

ウ . A「要配慮情報の取得」は不妥当 / B「安全管理措置」は妥当

エ . A「要配慮情報の取得」は不妥当 / B「安全管理措置」も不妥当

答え・解説

正答：ア

ア：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

イ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：A・Bの双方の評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：公開情報が否かだけで適法性は決まらず、取得方法・利用目的・その後の利用や提供も含めて判断する。 Bの根拠：要配慮個人情報は差別・偏見等の危険が高いため、取得段階から特別な保護が置かれている。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

答え・解説

正答：イ

ア：Bの評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

ウ：A・Bの双方の評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：Aの評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：要配慮個人情報は差別・偏見等の危険が高いため、取得段階から特別な保護が置かれている。 Bの根拠：安全管理措置は一つの技術だけではなく、組織・人・物理環境・技術を組み合わせて実施する。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

0107

情報通信・個人情報保護 > 個人情報保護法 | 難易度：標準

次の二つの整理A・Bについて、妥当・不妥当の組合せとして正しいものはどれか。

A：論点「安全管理措置」について、学習メモ「安全管理措置は一つの技術だけではなく、組織・人・物理環境・技術を組み合わせて実施する。」を誤った整理として退ける。

B：論点「従業者監督」について、学習メモ「個人データの管理はシステムだけでなく、従業者教育・アクセス権限管理・内部ルール等を含む。」を妥当な整理として扱う。

ア．A「安全管理措置」は妥当 / B「従業者監督」も妥当

イ．A「安全管理措置」は妥当 / B「従業者監督」は不妥当

ウ．A「安全管理措置」は不妥当 / B「従業者監督」は妥当

エ．A「安全管理措置」は不妥当 / B「従業者監督」も不妥当

答え・解説

正答：ウ

ア：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

エ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：安全管理措置は一つの技術だけではなく、組織・人・物理環境・技術を組み合わせて実施する。Bの根拠：個人データの管理はシステムだけでなく、従業者教育・アクセス権限管理・内部ルール等を含む。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

0108

情報通信・個人情報保護 > 個人情報保護法 | 難易度：標準

同一分野の二つの判断A・Bを検討した。評価の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：論点「従業者監督」について、学習メモ「個人データの管理はシステムだけでなく、従業者教育・アクセス権限管理・内部ルール等を含む。」を誤った整理として退ける。

B：論点「委託先監督」について、学習メモ「委託は業務効率化に有用だが、選定・契約・取扱状況の把握などを通じた監督が必要となる。」を誤った整理として退ける。

ア．A「従業者監督」は妥当 / B「委託先監督」も妥当

イ．A「従業者監督」は妥当 / B「委託先監督」は不妥当

ウ．A「従業者監督」は不妥当 / B「委託先監督」は妥当

エ．A「従業者監督」は不妥当 / B「委託先監督」も不妥当

答え・解説

正答：エ

ア：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

総合解説：Aの根拠：個人データの管理はシステムだけでなく、従業者教育・アクセス権限管理・内部ルール等を含む。Bの根拠：委託は業務効率化に有用だが、選定・契約・取扱状況の把握などを通じた監督が必要となる。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

0109

情報通信・個人情報保護 > 個人情報保護法 | 難易度：標準

同じ細分類について、次の学習メモA・Bの評価の組合せとして最も妥当なものはどれか。

A：論点「委託先監督」について、学習メモ「委託は業務効率化に有用だが、選定・契約・取扱状況の把握などを通じた監督が必要となる。」を妥当な整理として扱う。

B：論点「漏えい等報告」について、学習メモ「漏えい等対応では報告・通知だけでなく、被害拡大防止、事実関係・原因調査、再発防止等も重要である。」を妥当な整理として扱う。

ア . A「委託先監督」は妥当 / B「漏えい等報告」も妥当

イ . A「委託先監督」は妥当 / B「漏えい等報告」は不妥当

ウ . A「委託先監督」は不妥当 / B「漏えい等報告」は妥当

エ . A「委託先監督」は不妥当 / B「漏えい等報告」も不妥当

答え・解説

正答：ア

ア：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

イ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：委託は業務効率化に有用だが、選定・契約・取扱状況の把握などを通じた監督が必要となる。Bの根拠：漏えい等対応では報告・通知だけでなく、被害拡大防止、事実関係・原因調査、再発防止等も重要である。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

0110

情報通信・個人情報保護 > 個人情報保護法 | 難易度：応用

受験生が復習 ノートに次のA・Bを書いた。各記述の妥当性の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：論点「漏えい等報告」について、学習メモ「漏えい等対応では報告・通知だけでなく、被害拡大防止、事実関係・原因調査、再発防止等も重要である。」を妥当な整理として扱う。

B：論点「第三者提供」について、学習メモ「第三者提供では本人同意の原則に加え、委託・事業承継・共同利用など第三者に該当しない場面も区別する必要がある。」を誤った整理として退ける。

ア . A「漏えい等報告」は妥当 / B「第三者提供」も妥当

イ . A「漏えい等報告」は妥当 / B「第三者提供」は不妥当

ウ . A「漏えい等報告」は不妥当 / B「第三者提供」は妥当

エ . A「漏えい等報告」は不妥当 / B「第三者提供」も不妥当

答え・解説

正答：イ

ア：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

ウ：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：漏えい等対応では報告・通知だけでなく、被害拡大防止、事実関係・原因調査、再発防止等も重要である。Bの根拠：第三者提供では本人同意の原則に加え、委託・事業承継・共同利用など第三者に該当しない場面も区別する必要がある。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

0111

情報通信・個人情報保護 > 個人情報保護法 | 難易度：応用

次の二つの整理A・Bについて、妥当・不妥当の組合せとして正しいものはどれか。

A：論点「第三者提供」について、学習メモ「第三者提供では本人同意の原則に加え、委託・事業承継・共同利用など第三者に該当しない場面も区別する必要がある。」を誤った整理として退ける。

B：論点「外国第三者提供」について、学習メモ「越境データ移転では本人が提供先国の制度や保護措置を理解できるようにするなど、国内提供より追加の保護が求められる。」を妥当な整理として扱う。

ア . A「第三者提供」は妥当 / B「外国第三者提供」も妥当

イ . A「第三者提供」は妥当 / B「外国第三者提供」は不妥当

ウ . A「第三者提供」は不妥当 / B「外国第三者提供」は妥当

エ . A「第三者提供」は不妥当 / B「外国第三者提供」も不妥当

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

答え・解説

正答：ウ

ア：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

エ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：第三者提供では本人同意の原則に加え、委託・事業承継・共同利用など第三者に該当しない場面も区別する必要がある。 Bの根拠：越境データ移転では本人が提供先国の制度や保護措置を理解できるようにするなど、国内提供より追加の保護が求められる。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

0112

情報通信・個人情報保護 > 個人情報保護法 | 難易度：応用

同一分野の二つの判断A・Bを検討した。評価の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：論点「外国第三者提供」について、学習メモ「越境データ移転では本人が提供先国の制度や保護措置を理解できるようにするなど、国内提供より追加の保護が求められる。」を誤った整理として退ける。

B：論点「本人開示」について、学習メモ「本人関与の仕組みとして、開示だけでなく訂正等や利用停止等の請求制度も設けられている。」を誤った整理として退ける。

ア . A「外国第三者提供」は妥当 / B「本人開示」も妥当

イ . A「外国第三者提供」は妥当 / B「本人開示」は不妥当

ウ . A「外国第三者提供」は不妥当 / B「本人開示」は妥当

エ . A「外国第三者提供」は不妥当 / B「本人開示」も不妥当

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

答え・解説

正答：エ

ア：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

総合解説：Aの根拠：越境データ移転では本人が提供先国の制度や保護措置を理解できるようにするなど、国内提供より追加の保護が求められる。 Bの根拠：本人関与の仕組みとして、開示だけでなく訂正等や利用停止等の請求制度も設けられている。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

0113

情報通信・個人情報保護 > 個人情報保護法 | 難易度：応用

同じ細分類について、次の学習メモA・Bの評価の組合せとして最も妥当なものはどれか。

A：論点「本人開示」について、学習メモ「本人関与の仕組みとして、開示だけでなく訂正等や利用停止等の請求制度も設けられている。」を妥当な整理として扱う。

B：論点「訂正・利用停止」について、学習メモ「本人が自分に関するデータの正確性や適法な取扱いを確保するため、複数の請求権が設けられている。」を妥当な整理として扱う。

ア . A「本人開示」は妥当 / B「訂正・利用停止」も妥当

イ . A「本人開示」は妥当 / B「訂正・利用停止」は不妥当

ウ . A「本人開示」は不妥当 / B「訂正・利用停止」は妥当

エ . A「本人開示」は不妥当 / B「訂正・利用停止」も不妥当

答え・解説

正答：ア

ア：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

イ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：本人関与の仕組みとして、開示だけでなく訂正等や利用停止等の請求制度も設けられている。Bの根拠：本人が自分に関するデータの正確性や適法な取扱いを確保するため、複数の請求権が設けられている。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

0114

情報通信・個人情報保護 > 個人情報保護法 | 難易度：応用

受験生が復習 ノートに次のA・Bを書いた。各記述の妥当性の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：論点「訂正・利用停止」について、学習メモ「本人が自分に関するデータの正確性や適法な取扱いを確保するため、複数の請求権が設けられている。」を妥当な整理として扱う。

B：論点「仮名・匿名加工情報」について、学習メモ「両者はデータ利活用を促す仕組みだが、再識別可能性や第三者提供等の規律が異なるため区別が重要である。」を誤った整理として退ける。

ア . A「訂正・利用停止」は妥当 / B「仮名・匿名加工情報」も妥当

イ . A「訂正・利用停止」は妥当 / B「仮名・匿名加工情報」は不妥当

ウ . A「訂正・利用停止」は不妥当 / B「仮名・匿名加工情報」は妥当

エ . A「訂正・利用停止」は不妥当 / B「仮名・匿名加工情報」も不妥当

答え・解説

正答：イ

ア：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

ウ：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：本人が自分に関するデータの正確性や適法な取扱いを確保するため、複数の請求権が設けられている。Bの根拠：両者はデータ利活用を促す仕組みだが、再識別可能性や第三者提供等の規律が異なるため区別が重要である。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

0115

情報通信・個人情報保護 > 個人情報保護法 | 難易度：応用

次の二つの整理A・Bについて、妥当・不妥当の組合せとして正しいものはどれか。

A：論点「仮名・匿名加工情報」について、学習メモ「両者はデータ利活用を促す仕組みだが、再識別可能性や第三者提供等の規律が異なるため区別が重要である。」を誤った整理として退ける。

B：論点「個人情報の定義」について、学習メモ「個人情報は氏名がなくても、他の情報と容易に照合して特定個人を識別できる場合や個人識別符号を含む場合に該当し得る。」を妥当な整理として扱う。

ア . A「仮名・匿名加工情報」は妥当 / B「個人情報の定義」も妥当

イ . A「仮名・匿名加工情報」は妥当 / B「個人情報の定義」は不妥当

ウ . A「仮名・匿名加工情報」は不妥当 / B「個人情報の定義」は妥当

エ . A「仮名・匿名加工情報」は不妥当 / B「個人情報の定義」も不妥当

答え・解説

正答：ウ

ア：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

エ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：両者はデータ利活用を促す仕組みだが、再識別可能性や第三者提供等の規律が異なるため区別が重要である。 Bの根拠：個人情報は氏名がなくても、他の情報と容易に照合して特定個人を識別できる場合や個人識別符号を含む場合に該当し得る。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-04-01

0116

情報通信・個人情報保護 > 情報セキュリティ・データ保護 | 難易度：基礎

同一分野の二つの判断A・Bを検討した。評価の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：論点「CIA」について、学習メモ「機密性は権限のない者に情報を見せないこと、完全性は不正な改ざん等を防ぐこと、可用性は必要時に利用できることを指す。」を誤った整理として退ける。

B：論点「多要素認証」について、学習メモ「パスワード漏えいだけで侵入されるリスクを下げるため、異なる性質の要素を組み合わせる。」を誤った整理として退ける。

ア . A「CIA」は妥当 / B「多要素認証」も妥当

イ . A「CIA」は妥当 / B「多要素認証」は不妥当

ウ . A「CIA」は不妥当 / B「多要素認証」は妥当

エ . A「CIA」は不妥当 / B「多要素認証」も不妥当

答え・解説

正答：エ

ア：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

総合解説：Aの根拠：機密性は権限のない者に情報を見せないこと、完全性は不正な改ざん等を防ぐこと、可用性は必要時に利用できることを指す。 Bの根拠：パスワード漏えいだけで侵入されるリスクを下げるため、異なる性質の要素を組み合わせる。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0117

情報通信・個人情報保護 > 情報セキュリティ・データ保護 | 難易度：基礎

同じ細分類について、次の学習メモA・Bの評価の組合せとして最も妥当なものはどれか。

A：論点「多要素認証」について、学習メモ「パスワード漏えいだけで侵入されるリスクを下げるため、異なる性質の要素を組み合わせる。」を妥当な整理として扱う。

B：論点「バックアップ」について、学習メモ「バックアップは予防策の代替ではなく、更新・脆弱性対策・認証強化等と組み合わせる事業継続策である。」を妥当な整理として扱う。

ア . A「多要素認証」は妥当 / B「バックアップ」も妥当

イ . A「多要素認証」は妥当 / B「バックアップ」は不妥当

ウ . A「多要素認証」は不妥当 / B「バックアップ」は妥当

エ . A「多要素認証」は不妥当 / B「バックアップ」も不妥当

答え・解説

正答：ア

ア：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

イ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：Aの評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：A・Bの双方の評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：パスワード漏えいだけで侵入されるリスクを下げるため、異なる性質の要素を組み合わせる。Bの根拠：バックアップは予防策の代替ではなく、更新・脆弱性対策・認証強化等と組み合わせる事業継続策である。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0118

情報通信・個人情報保護 > 情報セキュリティ・データ保護 | 難易度：標準

受験生が復習 ノートに次のA・Bを書いた。各記述の妥当性の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：論点「バックアップ」について、学習メモ「バックアップは予防策の代替ではなく、更新・脆弱性対策・認証強化等と組み合わせる事業継続策である。」を妥当な整理として扱う。

B：論点「フィッシング」について、学習メモ「送信元表示やURLだけを安易に信頼せず、公式アプリ・ブックマーク等から確認することが有効である。」を誤った整理として退ける。

ア . A「バックアップ」は妥当 / B「フィッシング」も妥当

イ . A「バックアップ」は妥当 / B「フィッシング」は不妥当

ウ . A「バックアップ」は不妥当 / B「フィッシング」は妥当

エ . A「バックアップ」は不妥当 / B「フィッシング」も不妥当

答え・解説

正答：イ

ア：Bの評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

ウ：A・Bの双方の評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：Aの評価が本文の実際的评价と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：バックアップは予防策の代替ではなく、更新・脆弱性対策・認証強化等と組み合わせる事業継続策である。 Bの根拠：送信元表示やURLだけを安易に信頼せず、公式アプリ・ブックマーク等から確認することが有効である。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0119

情報通信・個人情報保護 > 情報セキュリティ・データ保護 | 難易度：標準

次の二つの整理A・Bについて、妥当・不妥当の組合せとして正しいものはどれか。

A：論点「フィッシング」について、学習メモ「送信元表示やURLだけを安易に信頼せず、公式アプリ・ブックマーク等から確認することが有効である。」を誤った整理として退ける。

B：論点「アクセス制御」について、学習メモ「最小権限、定期的な権限棚卸し、退職・異動時の迅速な権限変更は情報保護の基本である。」を妥当な整理として扱う。

ア . A「フィッシング」は妥当 / B「アクセス制御」も妥当

イ . A「フィッシング」は妥当 / B「アクセス制御」は不妥当

ウ . A「フィッシング」は不妥当 / B「アクセス制御」は妥当

エ . A「フィッシング」は不妥当 / B「アクセス制御」も不妥当

答え・解説

正答：ウ

ア：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

エ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

総合解説：Aの根拠：送信元表示やURLだけを安易に信頼せず、公式アプリ・ブックマーク等から確認することが有効である。 Bの根拠：最小権限、定期的な権限棚卸し、退職・異動時の迅速な権限変更は情報保護の基本である。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0120

情報通信・個人情報保護 > 情報セキュリティ・データ保護 | 難易度：応用

同一分野の二つの判断A・Bを検討した。評価の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：論点「アクセス制御」について、学習メモ「最小権限、定期的な権限棚卸し、退職・異動時の迅速な権限変更は情報保護の基本である。」を誤った整理として退ける。

B：論点「CIA」について、学習メモ「機密性は権限のない者に情報を見せないこと、完全性は不正な改ざん等を防ぐこと、可用性は必要時に利用できることを指す。」を誤った整理として退ける。

ア . A「アクセス制御」は妥当 / B「CIA」も妥当

イ . A「アクセス制御」は妥当 / B「CIA」は不妥当

ウ . A「アクセス制御」は不妥当 / B「CIA」は妥当

エ . A「アクセス制御」は不妥当 / B「CIA」も不妥当

答え・解説

正答：エ

ア：A・Bの双方の評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

イ：Aの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

ウ：Bの評価が本文の実際の評価と逆になっているため、この組合せは不適切である。

エ：A・Bの双方について、本文の評価と一致するため正しい組合せである。

総合解説：Aの根拠：最小権限、定期的な権限棚卸し、退職・異動時の迅速な権限変更は情報保護の基本である。 Bの根拠：機密性は権限のない者に情報を見せないこと、完全性は不正な改ざん等を防ぐこと、可用性は必要時に利用できることを指す。 二つの論点を別々に判定したうえで、組合せを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0121

文章理解 > 要旨把握 | 難易度：基礎

次の文章の要旨として最も適切なものはどれか。

制度の例外を増やすほど、個々の事情には対応しやすくなる。しかし例外が積み重なると、利用者は自分にどの規則が適用されるか判断しにくくなる。制度設計では柔軟性だけでなく、予測可能性も同時に確保する必要がある。

- ア．制度設計では個別事情への柔軟性と利用者の予測可能性を両立させる必要がある。
- イ．文章は、具体例の一部だけを唯一の結論としている。
- ウ．文章は、問題点があるため制度や技術を全面的に廃止すべきだと述べている。
- エ．文章は、複数の評価要素を比較する必要はないと結論づけている。

答え・解説

正答：ア

ア：文章全体の対比・理由・結論を過不足なく要約している。
イ：本文の一部を過度に一般化するか、本文が述べていない結論を加えている。
ウ：本文の一部を過度に一般化するか、本文が述べていない結論を加えている。
エ：本文の一部を過度に一般化するか、本文が述べていない結論を加えている。
総合解説：具体例や途中の留保ではなく、最終的に示された評価基準・結論を中心に要旨を把握する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0122

文章理解 > 要旨把握 | 難易度：基礎

次の文章の要旨として最も適切なものはどれか。

調査の回答率が高ければ、結果が必ず正確になるわけではない。特定の層だけが回答しやすい調査では、回答者の構成が母集団とずれることがある。結果を読むときは、回答率だけでなく誰が回答したかにも注意が必要である。

- ア．文章は、具体例の一部だけを唯一の結論としている。
- イ．調査結果の信頼性は回答率だけでなく回答者構成の偏りも考慮して評価すべきである。
- ウ．文章は、問題点があるため制度や技術を全面的に廃止すべきだと述べている。
- エ．文章は、複数の評価要素を比較する必要はないと結論づけている。

答え・解説

正答：イ

ア：本文の一部を過度に一般化するか、本文が述べていない結論を加えている。
イ：文章全体の対比・理由・結論を過不足なく要約している。
ウ：本文の一部を過度に一般化するか、本文が述べていない結論を加えている。
エ：本文の一部を過度に一般化するか、本文が述べていない結論を加えている。
総合解説：具体例や途中の留保ではなく、最終的に示された評価基準・結論を中心に要旨を把握する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0123 文章理解 > 要旨把握 | 難易度：基礎

次の文章の要旨として最も適切なものはどれか。

窓口を減らせば行政コストは下がるかもしれないが、移動が難しい人の負担は増える。オンライン手続を用意しても、機器を使いにくい人がある。効率化では平均的な利用者だけでなく、利用が難しい人への代替手段も考える必要がある。

- ア．文章は、具体例の一部だけを唯一の結論としている。
- イ．文章は、問題点があるため制度や技術を全面的に廃止すべきだと述べている。
- ウ．行政の効率化では、利用困難者への代替手段を含めて負担を評価する必要がある。
- エ．文章は、複数の評価要素を比較する必要はないと結論づけている。

答え・解説 正答：ウ

ア：本文の一部を過度に一般化するか、本文が述べていない結論を加えている。
イ：本文の一部を過度に一般化するか、本文が述べていない結論を加えている。
ウ：文章全体の対比・理由・結論を過不足なく要約している。
エ：本文の一部を過度に一般化するか、本文が述べていない結論を加えている。
総合解説：具体例や途中の留保ではなく、最終的に示された評価基準・結論を中心に要旨を把握する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0124 文章理解 > 要旨把握 | 難易度：標準

次の文章の要旨として最も適切なものはどれか。

予測モデルの精度が高くても、何を予測しているかが政策目的とずれていれば役に立たない。入手しやすい指標を目的そのものと取り違えると、判断を誤る。モデルの性能と同じくらい、予測対象の定義が重要である。

- ア．文章は、具体例の一部だけを唯一の結論としている。
- イ．文章は、問題点があるため制度や技術を全面的に廃止すべきだと述べている。
- ウ．文章は、複数の評価要素を比較する必要はないと結論づけている。
- エ．予測技術の評価では精度だけでなく、予測対象が政策目的に合っているかを確認する必要がある。

答え・解説 正答：エ

ア：本文の一部を過度に一般化するか、本文が述べていない結論を加えている。
イ：本文の一部を過度に一般化するか、本文が述べていない結論を加えている。
ウ：本文の一部を過度に一般化するか、本文が述べていない結論を加えている。
エ：文章全体の対比・理由・結論を過不足なく要約している。
総合解説：具体例や途中の留保ではなく、最終的に示された評価基準・結論を中心に要旨を把握する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0125

文章理解 > 要旨把握 | 難易度：標準

次の文章の要旨として最も適切なものはどれか。

危機時には早い情報発信が求められる一方、未確認情報を断定すれば混乱を広げる。すべて確認できるまで沈黙するのも適切ではない。確認済みの事実と未確認部分を分け、更新時期を示して発信することが重要である。

ア．危機時の情報発信では迅速さと正確さを両立させ、未確認部分を明示して更新することが重要である。

イ．文章は、具体例の一部だけを唯一の結論としている。

ウ．文章は、問題点があるため制度や技術を全面的に廃止すべきだと述べている。

エ．文章は、複数の評価要素を比較する必要はないと結論づけている。

答え・解説

正答：ア

ア：文章全体の対比・理由・結論を過不足なく要約している。
イ：本文の一部を過度に一般化するか、本文が述べていない結論を加えている。
ウ：本文の一部を過度に一般化するか、本文が述べていない結論を加えている。
エ：本文の一部を過度に一般化するか、本文が述べていない結論を加えている。
総合解説：具体例や途中の留保ではなく、最終的に示された評価基準・結論を中心に要旨を把握する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0126

文章理解 > 要旨把握 | 難易度：標準

次の文章の要旨として最も適切なものはどれか。

研修を一度実施ただけで行動が定着するとは限らない。実務で使う機会が少なければ忘れやすく、手順が変われば古い知識が残る。短い復習と実務上の確認を繰り返す方が、長期的な定着につながる。

ア．文章は、具体例の一部だけを唯一の結論としている。

イ．研修効果を定着させるには、一度きりでなく継続的な復習と実務確認が必要である。

ウ．文章は、問題点があるため制度や技術を全面的に廃止すべきだと述べている。

エ．文章は、複数の評価要素を比較する必要はないと結論づけている。

答え・解説

正答：イ

ア：本文の一部を過度に一般化するか、本文が述べていない結論を加えている。
イ：文章全体の対比・理由・結論を過不足なく要約している。
ウ：本文の一部を過度に一般化するか、本文が述べていない結論を加えている。
エ：本文の一部を過度に一般化するか、本文が述べていない結論を加えている。
総合解説：具体例や途中の留保ではなく、最終的に示された評価基準・結論を中心に要旨を把握する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0127

文章理解 > 要旨把握 | 難易度：標準

次の文章の要旨として最も適切なものはどれか。

AIが作成した文書は短時間で大量に作れるが、そのことは内容の正しさを保証しない。人が最終確認する場合でも、確認項目が曖昧なら誤りを見落とす。AI利用では生成速度だけでなく、検証手順をあらかじめ設計することが重要である。

ア．文章は、具体例の一部だけを唯一の結論としている。
イ．文章は、問題点があるため制度や技術を全面的に廃止すべきだと述べている。
ウ．AI利用では生成効率だけでなく、人による検証手順を具体的に設計する必要がある。
エ．文章は、複数の評価要素を比較する必要はないと結論づけている。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

答え・解説

正答：ウ

ア：本文の一部を過度に一般化するか、本文が述べていない結論を加えている。
イ：本文の一部を過度に一般化するか、本文が述べていない結論を加えている。
ウ：文章全体の対比・理由・結論を過不足なく要約している。
エ：本文の一部を過度に一般化するか、本文が述べていない結論を加えている。
総合解説：具体例や途中の留保ではなく、最終的に示された評価基準・結論を中心に要旨を把握する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0128

文章理解 > 要旨把握 | 難易度：標準

次の文章の要旨として最も適切なものはどれか。

意見募集で多くの意見が集まっても、単純な多数決で政策を決めるとは限らない。少数意見でも重大な権利侵害を指摘している場合がある。意見の件数と内容の重要性を区別して検討しなければならない。

ア．文章は、具体例の一部だけを唯一の結論としている。
イ．文章は、問題点があるため制度や技術を全面的に廃止すべきだと述べている。
ウ．文章は、複数の評価要素を比較する必要はないと結論づけている。
エ．意見募集では意見数だけでなく、内容の重要性も検討する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

答え・解説

正答：エ

ア：本文の一部を過度に一般化するか、本文が述べていない結論を加えている。
イ：本文の一部を過度に一般化するか、本文が述べていない結論を加えている。
ウ：本文の一部を過度に一般化するか、本文が述べていない結論を加えている。
エ：文章全体の対比・理由・結論を過不足なく要約している。
総合解説：具体例や途中の留保ではなく、最終的に示された評価基準・結論を中心に要旨を把握する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0129

文章理解 > 要旨把握 | 難易度：標準

次の文章の要旨として最も適切なものはどれか。

情報を集めてから保護方法を考えるのでは遅いことがある。収集項目を最初から必要最小限にし、保存期間や閲覧権限を設計段階で決めれば、漏えい時の影響も抑えやすい。

ア．データ保護は収集後の対策だけでなく、収集項目や権限を設計段階から最小化することが重要である。

イ．文章は、具体例の一部だけを唯一の結論としている。

ウ．文章は、問題点があるため制度や技術を全面的に廃止すべきだと述べている。

エ．文章は、複数の評価要素を比較する必要はないと結論づけている。

答え・解説

正答：ア

ア：文章全体の対比・理由・結論を過不足なく要約している。

イ：本文の一部を過度に一般化するか、本文が述べていない結論を加えている。

ウ：本文の一部を過度に一般化するか、本文が述べていない結論を加えている。

エ：本文の一部を過度に一般化するか、本文が述べていない結論を加えている。

総合解説：具体例や途中の留保ではなく、最終的に示された評価基準・結論を中心に要旨を把握する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0130

文章理解 > 要旨把握 | 難易度：応用

次の文章の要旨として最も適切なものはどれか。

平均値が上昇しても、すべての人の状態が改善したとは限らない。一部の大きな増加が平均を押し上げることもある。分布や中央値、層別の変化も確認して初めて、変化の広がりを判断できる。

ア．文章は、具体例の一部だけを唯一の結論としている。

イ．集団の変化を評価するには平均値だけでなく、分布や層別の変化も確認すべきである。

ウ．文章は、問題点があるため制度や技術を全面的に廃止すべきだと述べている。

エ．文章は、複数の評価要素を比較する必要はないと結論づけている。

答え・解説

正答：イ

ア：本文の一部を過度に一般化するか、本文が述べていない結論を加えている。

イ：文章全体の対比・理由・結論を過不足なく要約している。

ウ：本文の一部を過度に一般化するか、本文が述べていない結論を加えている。

エ：本文の一部を過度に一般化するか、本文が述べていない結論を加えている。

総合解説：具体例や途中の留保ではなく、最終的に示された評価基準・結論を中心に要旨を把握する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0131

文章理解 > 空欄補充 | 難易度：基礎

次の文章の【 】に入る語句として最も適切なものはどれか。

規則は簡潔なほど理解しやすい。【 】、例外を全て省けば重要な権利保護まで失われる場合がある。

- ア．したがって
- イ．たとえば
- ウ．しかし
- エ．つまり

答え・解説

正答：ウ

ア：前後の関係が逆接・因果・例示・指示のいずれかで不自然になる。
イ：前後の関係が逆接・因果・例示・指示のいずれかで不自然になる。
ウ：前後の論理関係・文法・指示内容に最も自然に接続する。
エ：前後の関係が逆接・因果・例示・指示のいずれかで不自然になる。
総合解説：空欄の直前と直後が、逆接・因果・言換え・指示のどの関係にあるかを確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0132

文章理解 > 空欄補充 | 難易度：基礎

次の文章の【 】に入る語句として最も適切なものはどれか。

行政が一度取得した情報でも、利用目的や法的根拠を無視して自由に使えるわけではない。【 】、データ連携では適法性の確認が必要になる。

- ア．ところで
- イ．一方
- ウ．たとえば
- エ．そのため

答え・解説

正答：エ

ア：前後の関係が逆接・因果・例示・指示のいずれかで不自然になる。
イ：前後の関係が逆接・因果・例示・指示のいずれかで不自然になる。
ウ：前後の関係が逆接・因果・例示・指示のいずれかで不自然になる。
エ：前後の論理関係・文法・指示内容に最も自然に接続する。
総合解説：空欄の直前と直後が、逆接・因果・言換え・指示のどの関係にあるかを確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0133

文章理解 > 空欄補充 | 難易度：基礎

次の文章の【 】に入る語句として最も適切なものはどれか。

統計の値が前年より増えた。【 】、集計方法も前年と同じかを確認しなければ、単純な増加とは判断できない。

- ア．ただし
- イ．つまり
- ウ．その結果
- エ．第一に

答え・解説

正答：ア

ア：前後の論理関係・文法・指示内容に最も自然に接続する。
イ：前後の関係が逆接・因果・例示・指示のいずれかで不自然になる。
ウ：前後の関係が逆接・因果・例示・指示のいずれかで不自然になる。
エ：前後の関係が逆接・因果・例示・指示のいずれかで不自然になる。
総合解説：空欄の直前と直後が、逆接・因果・言換え・指示のどの関係にあるかを確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0134

文章理解 > 空欄補充 | 難易度：基礎

次の文章の【 】に入る語句として最も適切なものはどれか。

利用者への説明には専門用語を減らす工夫が有効である。【 】、「処分」「申請」など法的意味を持つ語まで別の意味に置き換えると誤解を生む。

- ア．したがって
- イ．もっとも
- ウ．たとえば
- エ．その後

答え・解説

正答：イ

ア：前後の関係が逆接・因果・例示・指示のいずれかで不自然になる。
イ：前後の論理関係・文法・指示内容に最も自然に接続する。
ウ：前後の関係が逆接・因果・例示・指示のいずれかで不自然になる。
エ：前後の関係が逆接・因果・例示・指示のいずれかで不自然になる。
総合解説：空欄の直前と直後が、逆接・因果・言換え・指示のどの関係にあるかを確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0135文章理解 > 空欄補充 | 難易度：標準

次の文章の【 】に入る語句として最も適切なものはどれか。

問い合わせ記録を分類すると、同じ画面で同じ質問が集中していた。【 】、個々の利用者ではなく画面設計に共通原因がある可能性を検討できる。

ア．ところが
イ．ちなみに
ウ．このことから
エ．一方

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

答え・解説正答：ウ

ア：前後の関係が逆接・因果・例示・指示のいずれかで不自然になる。
イ：前後の関係が逆接・因果・例示・指示のいずれかで不自然になる。
ウ：前後の論理関係・文法・指示内容に最も自然に接続する。
エ：前後の関係が逆接・因果・例示・指示のいずれかで不自然になる。
総合解説：空欄の直前と直後が、逆接・因果・言換え・指示のどの関係にあるかを確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0136文章理解 > 空欄補充 | 難易度：標準

次の文章の【 】に入る語句として最も適切なものはどれか。

情報セキュリティ対策は技術だけで完結しない。端末を更新しても、共有パスワードを使い続けられバスクは残る。【 】、技術・運用・教育を組み合わせる必要がある。

ア．しかし
イ．たとえば
ウ．ところで
エ．したがって

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

答え・解説正答：エ

ア：前後の関係が逆接・因果・例示・指示のいずれかで不自然になる。
イ：前後の関係が逆接・因果・例示・指示のいずれかで不自然になる。
ウ：前後の関係が逆接・因果・例示・指示のいずれかで不自然になる。
エ：前後の論理関係・文法・指示内容に最も自然に接続する。
総合解説：空欄の直前と直後が、逆接・因果・言換え・指示のどの関係にあるかを確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0137

文章理解 > 空欄補充 | 難易度：標準

次の文章の【 】に入る語句として最も適切なものはどれか。

政策目的が「相談しやすさの向上」なのに、相談件数の減少だけを成功指標にすると評価を誤る。指標は目的そのものではなく、目的達成を測る【 】である。

ア．手段
イ．障害
ウ．例外
エ．結論

0138

文章理解 > 空欄補充 | 難易度：標準

次の文章の【 】に入る語句として最も適切なものはどれか。

同じ情報でも、図表の軸や期間の取り方で印象は変わる。受け手は数字そのものだけでなく、示し方の【 】も確認する必要がある。

ア．装飾
イ．前提
ウ．語尾
エ．偶然

答え・解説

正答：ア

ア：前後の論理関係・文法・指示内容に最も自然に接続する。
イ：前後の関係が逆接・因果・例示・指示のいずれかで不自然になる。
ウ：前後の関係が逆接・因果・例示・指示のいずれかで不自然になる。
エ：前後の関係が逆接・因果・例示・指示のいずれかで不自然になる。
総合解説：空欄の直前と直後が、逆接・因果・言換え・指示のどの関係にあるかを確認する。

答え・解説

正答：イ

ア：前後の関係が逆接・因果・例示・指示のいずれかで不自然になる。
イ：前後の論理関係・文法・指示内容に最も自然に接続する。
ウ：前後の関係が逆接・因果・例示・指示のいずれかで不自然になる。
エ：前後の関係が逆接・因果・例示・指示のいずれかで不自然になる。
総合解説：空欄の直前と直後が、逆接・因果・言換え・指示のどの関係にあるかを確認する。

0139文章理解 > 空欄補充 | 難易度：標準

次の文章の【 】に入る語句として最も適切なものはどれか。

制度変更を知らせるときは、変更点だけでなく「いつから」「誰に」適用されるかを示す必要がある。
【 】情報がなければ、利用者は自分への影響を判断しにくい。

ア．遠い
イ．偶然の
ウ．こうした
エ．後日の

答え・解説正答：ウ

ア：前後の関係が逆接・因果・例示・指示のいずれかで不自然になる。
イ：前後の関係が逆接・因果・例示・指示のいずれかで不自然になる。
ウ：前後の論理関係・文法・指示内容に最も自然に接続する。
エ：前後の関係が逆接・因果・例示・指示のいずれかで不自然になる。
総合解説：空欄の直前と直後が、逆接・因果・言換え・指示のどの関係にあるかを確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0140文章理解 > 空欄補充 | 難易度：応用

次の文章の【 】に入る語句として最も適切なものはどれか。

複数の資料が同じ結論を示しているも、すべてが同じ一次資料を引用している場合がある。資料数だけでなく情報の【 】を確認することが重要である。

ア．長さ
イ．色彩
ウ．順序
エ．独立性

答え・解説正答：エ

ア：前後の関係が逆接・因果・例示・指示のいずれかで不自然になる。
イ：前後の関係が逆接・因果・例示・指示のいずれかで不自然になる。
ウ：前後の関係が逆接・因果・例示・指示のいずれかで不自然になる。
エ：前後の論理関係・文法・指示内容に最も自然に接続する。
総合解説：空欄の直前と直後が、逆接・因果・言換え・指示のどの関係にあるかを確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0141 文章理解 > 並べ替え・論理構成 | 難易度：基礎

次のA～Dを意味の通る文章になるように並べ替えた場合、最も適切なものはどれか。

- A：そのため、変更後の利用状況を確認する必要がある。
- B：制度を変更しても、想定した効果が実際に出るとは限らない。
- C：確認結果に応じて説明や運用を修正する。
- D：利用者の行動は事前予測と異なることがあるからだ。

- ア . B→D→A→C
- イ . A→C→B→D
- ウ . A→D→C→B
- エ . B→C→A→D

答え・解説 正答：ア

ア：接続語・指示語・一般論から具体例への展開が自然につながる。
イ：接続語や指示語の受け先、理由と結論の順序のいずれかが不自然になる。
ウ：接続語や指示語の受け先、理由と結論の順序のいずれかが不自然になる。
エ：接続語や指示語の受け先、理由と結論の順序のいずれかが不自然になる。
総合解説：「そのため」「しかし」「そこで」などの接続語と、指示語が受ける文を手掛かりに順序を決める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0142 文章理解 > 並べ替え・論理構成 | 難易度：基礎

次のA～Dを意味の通る文章になるように並べ替えた場合、最も適切なものはどれか。

- A：一方、個人情報など公開できない情報もある。
- B：行政情報の公開は検証可能性を高める。
- C：したがって、公開範囲は透明性と保護利益の双方から決める。
- D：公開には行政への信頼を高める効果も期待できる。

- ア . B→A→D→C
- イ . B→D→A→C
- ウ . B→D→C→A
- エ . C→B→A→D

答え・解説 正答：イ

ア：接続語や指示語の受け先、理由と結論の順序のいずれかが不自然になる。
イ：接続語・指示語・一般論から具体例への展開が自然につながる。
ウ：接続語や指示語の受け先、理由と結論の順序のいずれかが不自然になる。
エ：接続語や指示語の受け先、理由と結論の順序のいずれかが不自然になる。
総合解説：「そのため」「しかし」「そこで」などの接続語と、指示語が受ける文を手掛かりに順序を決める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0143 文章理解 > 並べ替え・論理構成 | 難易度：基礎

次のA～Dを意味の通る文章になるように並べ替えた場合、最も適切なものはどれか。

- A：そこで、重要な指標は複数の方法で確認する。
- B：一つの数値だけで判断すると異常を見落とすことがある。
- C：異なる指標が同じ方向を示すかを見ることで判断の確度を上げられる。
- D：特に測定誤差が大きい場面では注意が必要である。

- ア . C→A→D→B
- イ . C→D→A→B
- ウ . B→D→A→C
- エ . D→A→C→B

答え・解説 正答：ウ

ア：接続語や指示語の受け先、理由と結論の順序のいずれかが不自然になる。
イ：接続語や指示語の受け先、理由と結論の順序のいずれかが不自然になる。
ウ：接続語・指示語・一般論から具体例への展開が自然につながる。
エ：接続語や指示語の受け先、理由と結論の順序のいずれかが不自然になる。
総合解説：「そのため」「しかし」「そこで」などの接続語と、指示語が受ける文を手掛かりに順序を決める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0144 文章理解 > 並べ替え・論理構成 | 難易度：標準

次のA～Dを意味の通る文章になるように並べ替えた場合、最も適切なものはどれか。

- A：その結果、担当者が変わっても判断基準を共有しやすい。
- B：例外対応を口頭だけで処理すると、後から理由を確認できない。
- C：例外を認めた理由と条件を記録することが重要である。
- D：同じ状況で異なる扱いが生じる原因にもなる。

- ア . D→A→B→C
- イ . D→B→C→A
- ウ . A→B→C→D
- エ . B→D→C→A

答え・解説 正答：エ

ア：接続語や指示語の受け先、理由と結論の順序のいずれかが不自然になる。
イ：接続語や指示語の受け先、理由と結論の順序のいずれかが不自然になる。
ウ：接続語や指示語の受け先、理由と結論の順序のいずれかが不自然になる。
エ：接続語・指示語・一般論から具体例への展開が自然につながる。
総合解説：「そのため」「しかし」「そこで」などの接続語と、指示語が受ける文を手掛かりに順序を決める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0145

文章理解 > 並べ替え・論理構成 | 難易度：標準

次のA～Dを意味の通る文章になるように並べ替えた場合、最も適切なものはどれか。

- A：しかし、速さだけを重視すると確認不足が起こる。
- B：災害時の情報提供では迅速さが重要である。
- C：確認済み情報と推定を分けて発信する必要がある。
- D：誤った情報は避難行動をかえって妨げることがある。

- ア．B→A→D→C
- イ．D→C→B→A
- ウ．A→C→B→D
- エ．A→D→C→B

答え・解説

正答：ア

ア：接続語・指示語・一般論から具体例への展開が自然につながる。
イ：接続語や指示語の受け先、理由と結論の順序のいずれかが不自然になる。
ウ：接続語や指示語の受け先、理由と結論の順序のいずれかが不自然になる。
エ：接続語や指示語の受け先、理由と結論の順序のいずれかが不自然になる。
総合解説：「そのため」「しかし」「そこで」などの接続語と、指示語が受ける文を手掛かりに順序を決める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0146

文章理解 > 並べ替え・論理構成 | 難易度：標準

次のA～Dを意味の通る文章になるように並べ替えた場合、最も適切なものはどれか。

- A：そのため、受講直後だけでなく一定期間後にも確認する。
- B：研修直後のテスト成績だけでは定着を判断しにくい。
- C：実務で必要な場面に知識を使えるかが重要だからだ。
- D：定着を評価するには時間を置いた確認が必要である。

- ア．A→D→B→C
- イ．B→C→D→A
- ウ．B→A→D→C
- エ．B→D→C→A

答え・解説

正答：イ

ア：接続語や指示語の受け先、理由と結論の順序のいずれかが不自然になる。
イ：接続語・指示語・一般論から具体例への展開が自然につながる。
ウ：接続語や指示語の受け先、理由と結論の順序のいずれかが不自然になる。
エ：接続語や指示語の受け先、理由と結論の順序のいずれかが不自然になる。
総合解説：「そのため」「しかし」「そこで」などの接続語と、指示語が受ける文を手掛かりに順序を決める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0147 文章理解 > 並べ替え・論理構成 | 難易度：標準

次のA～Dを意味の通る文章になるように並べ替えた場合、最も適切なものはどれか。

- A：次に、必要な情報を入力した利用者だけに追加項目を示す。
- B：まず、すべての利用者に必要な最低限の項目を整理する。
- C：こうすると不要な入力を減らしながら必要情報を確保できる。
- D：申請画面を改善するには、項目の条件分岐を見直す方法がある。

- ア . B→C→D→A
- イ . C→A→B→D
- ウ . D→B→A→C
- エ . C→B→D→A

答え・解説 正答：ウ

ア：接続語や指示語の受け先、理由と結論の順序のいずれかが不自然になる。
イ：接続語や指示語の受け先、理由と結論の順序のいずれかが不自然になる。
ウ：接続語・指示語・一般論から具体例への展開が自然につながる。
エ：接続語や指示語の受け先、理由と結論の順序のいずれかが不自然になる。
総合解説：「そのため」「しかし」「そこで」などの接続語と、指示語が受ける文を手掛かりに順序を決める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0148 文章理解 > 並べ替え・論理構成 | 難易度：標準

次のA～Dを意味の通る文章になるように並べ替えた場合、最も適切なものはどれか。

- A：そこで、出典の日付と更新履歴を確認する。
- B：ウェブ上の記事は公開後に内容が修正されることがある。
- C：古い引用だけでは現在の内容を正確に示さない場合がある。
- D：同じURLでも閲覧時期によって情報が異なる可能性がある。

- ア . C→B→D→A
- イ . D→A→B→C
- ウ . D→B→C→A
- エ . B→D→C→A

答え・解説 正答：エ

ア：接続語や指示語の受け先、理由と結論の順序のいずれかが不自然になる。
イ：接続語や指示語の受け先、理由と結論の順序のいずれかが不自然になる。
ウ：接続語や指示語の受け先、理由と結論の順序のいずれかが不自然になる。
エ：接続語・指示語・一般論から具体例への展開が自然につながる。
総合解説：「そのため」「しかし」「そこで」などの接続語と、指示語が受ける文を手掛かりに順序を決める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0149

文章理解 > 並べ替え・論理構成 | 難易度：標準

次のA～Dを意味の通る文章になるように並べ替えた場合、最も適切なものはどれか。

- A：その違いを踏まえて対策を選ぶ必要がある。
- B：同じ「漏えい」でも原因は一つではない。
- C：誤送信なら確認手順、侵入なら認証や脆弱性対策が中心になる。
- D：原因ごとに有効な再発防止策が異なるからである。

- ア . B→D→C→A
- イ . D→B→A→C
- ウ . D→C→B→A
- エ . A→C→B→D

答え・解説

正答：ア

ア：接続語・指示語・一般論から具体例への展開が自然につながる。
イ：接続語や指示語の受け先、理由と結論の順序のいずれかが不自然になる。
ウ：接続語や指示語の受け先、理由と結論の順序のいずれかが不自然になる。
エ：接続語や指示語の受け先、理由と結論の順序のいずれかが不自然になる。
総合解説：「そのため」「しかし」「そこで」などの接続語と、指示語が受ける文を手掛かりに順序を決める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0150

文章理解 > 並べ替え・論理構成 | 難易度：応用

次のA～Dを意味の通る文章になるように並べ替えた場合、最も適切なものはどれか。

- A：一方、少数でも重大な不利益を受ける人がある場合がある。
- B：政策評価では平均的な便益を把握することが有用である。
- C：したがって、平均と分布の双方を見て評価する必要がある。
- D：平均値だけでは負担の偏りが見えないことがある。

- ア . A→B→D→C
- イ . B→A→D→C
- ウ . A→D→B→C
- エ . B→C→A→D

答え・解説

正答：イ

ア：接続語や指示語の受け先、理由と結論の順序のいずれかが不自然になる。
イ：接続語・指示語・一般論から具体例への展開が自然につながる。
ウ：接続語や指示語の受け先、理由と結論の順序のいずれかが不自然になる。
エ：接続語や指示語の受け先、理由と結論の順序のいずれかが不自然になる。
総合解説：「そのため」「しかし」「そこで」などの接続語と、指示語が受ける文を手掛かりに順序を決める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08